

商 況

(日本製鐵販賣旬報第137號~139號より抜萃)

目 次

自昭和13年12月下旬
至昭和14年2月上旬 鐵鋼關係日誌
歐洲鐵鋼業の販賣機構 (2)
1938年の世界鐵鋼業の情勢 (1)
海外鐵鋼情報

東京大阪鐵鋼市場概況
東京大阪市中鐵鋼相場表
昭和13年12月中發表各種鋼材建値表
昭和14年1月中發表各種鋼材建値表

自昭和13年12月下旬 至昭和14年2月上旬 鐵鋼關係日誌

- 20日 去る12日開催の薄板共販理事會では一般鋼材(棒、形、鋼板、線)に付ては建値の變更を見たるも原料及び鋼板共販のエキストラの調整等の關係上建直は据置と決定した。
- 21日 今週の米國製鋼作業率は全能力の51.7%と前週に比し5.9%の續減を見積られた。これは消費者筋が年明け後の手持在荷を出来るだけ少くしようとするためであると。
- 日本製鐵釜石製鐵所では700t熔鑄爐1基完成し火入式を行ふ。
- 東京伸鐵工業組合では昭和14年1、2月渡賣出値段は引續き据置きと發表。
- 22日 大阪伸鐵工業組合では12月第2回賣出値段は据置きと發表
- 日本製鐵では第10回定時株主總會を開き利益金處分案(年7%分配)を可決した。
- 我が政府は日支國交調整に關する根本方針について近衛首相談の形式を以て重大聲明を發した。其の内容の要點は帝國が支那に要望せんとする處は 1.支那が進んで滿洲國と完全なる國交を修むること。2.日支防共協定の締結。(イ)防共の目的に對する保障を擧ぐるために同協定繼續中特定地點に日本軍の防共駐屯を認むること。(ロ)内蒙地方を特殊防共地域とすべきこと。3.日支平等の原則に立つ日支經濟提携の實現。(イ)帝國臣民の支那内地に於ける居住、營業の自由。(ロ)北支及内蒙地域の資源開發利用上日本に對し積極的便宜を與ふること。
- 23日 本日倫敦よりの入電によれば英國政府は明年度豫算に20,000,000磅(約340,000,000圓)に上る防空施設費を計上し居るものと豫期せられ、之が鋼材市況に及ぼす影響に就ては、本施設には相當莫大なる鋼材殊に薄鋼板及小形鋼を要する見込より、現在々庫多量にて市況不味なるに拘らず國內相場は維持せられ恢復に向ふものと豫想せられ居ると
- フランスの鐵鋼價格は1937年11月以來改訂されず今日に至るが最近生産原價昂騰により100kgに付10法方の價格引上が豫想され市場は活況を呈してゐると。
- 獨逸鐵鋼協會では11月中の獨逸鐵鋼生産高は1,601,000t(10月1,611,000 鋼2,032,000(10月2,057,030))
- アメリカの屑鐵業者は歐洲屑鐵カルテルとの間に第1號ヘグイメルテング100,000tの販賣契約成立せりと。價格はt當り15弗。
- USスチール株は66弗(前日65弗1/4)

- 日ソ漁業條約締結に關する東郷、リトヴィノフ會談は交渉の重點たる安定漁區問題につき双方意見對立し年内の協定締結は絶望視さるに至る。
- 26日 天皇陛下親臨の下に第74議會開院式行はる。
- 28日 今週の米國製鋼作業率は全能力の38.8%と前週より12.9%の激減を示したがこれはクリスマス休日の爲の一時的のもので直に回復に向ふものと見られてゐる。
- 重慶脱出以來その去就について多大の注目を集めてゐる汪兆銘は中央常務委員會及國防最高會議宛に、去る22日の近衛首相の聲明に答へ和平交渉の基礎として折衝に努力し戦局を終局せしむべき好機なりとの書簡を發した。
- 29日 米國商務省發表 11月中銑鐵輸出高は38,000t、同屑鐵は448,000t。
- 昭和12年7月を100とする全國主要24市平均12月分労働者生計費指數は113.4で、前月より4厘、前年同期より1割1厘の上昇。尙全國主要10市平均12月分給料生活者生計費指數は112.6で前月より4厘、前年同期より9分4厘の上昇である。
- 30日 米國1級屑鋼ピツツパーク消費者渡15弗50仙~16弗、同輸出向紐育解渡12弗~12弗50仙、ルール屑輸出向ボストン貨車渡14弗。(前週より不變)
- 1月1日 國民黨では緊急中央執監聯席會議を開き汪兆銘を黨規紊亂の理由により終身除名を決議す。
- 3日 大本營陸軍部發表 今回中支方面最高指揮官畑俊六大將は軍事參議官に親補せられ、その後任として現地某要職にありし山田乙三中將が親補せられたり。
- 4日 今週の米國製鋼作業率は今月の各消費者筋よりの需要良好と見て全能力の50.7%と見積られ前週より11.9%を急増した。
- 近衛内閣は支那事變が長期建設の新段階に入りたる爲新たな内閣によつて此の新政態を擔當するが最善となし總辭職を執行す。
- 組閣の大命は樞密院議長平沼男に降下す。
- 6日 内閣總理大臣平沼麒一郎、外務大臣有田八郎、内務大臣木戸幸一、大藏大臣石渡莊太郎、陸軍大臣板垣征四郎、海軍大臣米内光政、司法大臣兼逓信大臣鹽野季彦、文部大臣荒木貞夫、農林大臣櫻内幸雄、商工大臣兼拓務大臣八田嘉明、鐵道大臣前田米蔵、厚生大臣廣瀬久忠、無任所大臣近衛文磨。
- 平沼首相は「大命を拜して」と題して今後の政策の重點について綜合國力の擴充に置き廣く世界の狀勢を注視して之が運用に當り既往に泥まらず新奇に銜はず専ら國家總動員態

勢を強化して内外各般の國策遂行に當る旨放送した。

- 9日 商工省は民需特殊鋼配給統制のためメーカーをして特殊鋼協議會を組織せしめ本年1月1日より需要者側に對し切符制による特殊鋼の配給數量割當を實施したが今回更に販賣價格の統制をも行ふことに方針を決定。
- 蔣介石は汪兆銘脱出問題以後政情不安に乗ずる配下各將領の背反に因りて抗戰意識の弛緩する事を憂へ桂林に於て軍事會議を開くことになりたりと。
- 10日 ハンガリー國は滿洲國を承認す。
- 米國今週の製鋼作業率は全能力の51.7%と見積られ、前週より1.0%増加である。U.S.スチール株は67弗。
- 11日 棒鋼及び形鋼共販理事會開催 3,4月積販賣値段は前回通り据置と決定した。
- 從來形鋼指定問屋の加藤忠商店の名義中には北國、石田、木下の3店を含み居りたるも、今回大阪鋼鐵株式會社(代表取締役北國正直)と名義及び組織を變更することとなつた。
- 日本鋼材聯合會常務委員會に於て鋼材販賣會社設立に關する中井委員長よりの提案に對し次記の如く意見の一致を見た。
1. 鋼材販賣會社設立に因る4種共販の取扱に就いては現共販の販賣事務のみは新會社に移る譯であるが新會社の指導監督は日鋼聯に部會を設けて之に當り各理事は其儘之に編入す。
 2. 指定販賣店は輸出入指定商とし、國內賣中の問屋賣は暫く停止するも實需賣に付ては指定問屋の資格を以て取扱分野を定むることとす。
 3. 全役員協力して會社の運営に當り常務取締役は當分選任せず。
- 臨時物資調整局では亜鉛鐵板の配給統制を實施することとなり各地方廳に對し次の如き統制要綱を指示したりと。
- 亜鉛鐵板製造業をして工業組合を組織せしめ統制に當らしむ。販賣業者は其機能により特定問屋及び地方問屋別に商業組合を組織す。尙商工省監督下に薄板共販、工業組合、特定問屋商業組合のメンバーを以て亜鉛鐵板配給協議會を設置し、毎月1回開催して1ヶ月分の割當を決定す。
- 12月中の英國銑鐵生産高は448,000t(前月462,000)鋼生産高、656,000t(前月860,000)活動中の熔鑄爐数は78基。
- 米國鐵鋼協會發表によれば12月中の銑鐵生産高は2,202,000t(前月2,270,000)鋼3,143,000t(前月3,572,000)
- チエンバレン英首相、ハリファツクス同外相はローマにムソリニ首相を訪問した。ムソリニ首相は歐洲新秩序建設に關し主張を述べ東歐問題、スペイン問題について意見の交換をなすものと見られてゐる。
- 昨年12月中の東京卸賣物價指數は255.1%と前月より5厘方の騰貴を示した。調査品目100品中騰貴43、低落19、保合48。
- 12日 半製品、棒鋼共販第2部理事會では3月積建値は据置と發表。
- 薄板共販理事會に於て2月積建値は据置と決定す。
- 伊、英第2次會談は全般的に歐洲の各問題に觸れ特にムソリニ首相は對佛問題については領土權の委讓を要求し、スペイン問題に就ては伊國のフランコ政權援助により、終局

的勝利を確保する意向なる旨を闡明したるに、英首相は佛伊兩國の直接交渉については積極的勸奨の意思なく、又萬一の場合に英國の對佛援助の點については明言出來ざる點を明かにし會談は終了したと傳へらる。

- 13日 線材共販理事會は2,3月積の建値は据置と發表。
- 14日 鋳力板共販理事會では2月積建値は据置と發表した。
- 英國政府はクレギー駐日英大使を経て帝國政府の主張する東亞の新事態に同意し難き旨を表明し、公文書を提出した。
- 15日 我陸軍航空隊は敵首都重慶を襲ひ敵機10機を撃墜す。
- 16日 米國今週の製鋼作業率は全能力の52.7%と見積られ前週より1%の昂騰である。
- U.S.スチール社の12月中鋼材引渡高は694,000tで前月より14,000tの増加である。
- 半製品共販理事會では2月積建値を据置と發表した。
- 滿洲國政府は張總理談の形式を以て防共協定正式加盟の意を中外に闡明した。
- 20日 鋼材販賣會社發起人會開催 名稱を日本鋼材販賣株式會社とする事、創立委員長に中井日鐵社長が當り創立委員に小川彌太郎、谷田友治、澁澤正雄、古井保太郎、石津武彦、間島三次、渡邊政人、川崎芳能、淺野良三、淺田長平、末兼要、井上長太夫の諸氏と決定した。
- 12月全國生計費指數は211.6で0.4%の騰貴を示した。尙13年度の總平均指數は207.1であつた。(12年192.8)
- 20日 日滿鐵鋼販賣會社では指定商5社の本年第1,4半期分取扱クォーターを次の如く決定した。(括弧内は前期)
- 三井32%(35%)、三菱24%(26%)、岸本25%(22%)、大倉10%(10%)、日商9%(6%)。此取扱率は前期に於ける各社の實際取扱高の今期の國內の出銑及び輸入銑の取扱系統關係を參酌せるものなりと。
- 21日 陸軍省整備局資源課より普通鋼材及び銑鐵配給證明書及び優先配給要望書發行擔任者陸軍省整備局戰備課長は陸軍省整備局資源課長に變更すとの通達ありたり。從て販賣旬報第124號掲載の軍部關係鐵鋼配給證明書發行擔任官はこの趣旨通り訂正す。
- 23日 今週のアメリカ製鋼作業率は全能力の51.2%と見積られ前週より1.5%の低落である。作業率は急回復を示す事が出來ないのは内外情勢の不安定の爲であると。
- 歐洲鐵鋼界に於てはコールド・ロール・フープについて國際カルテルを設立する事に決定、ドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルグが之に参加調印を了した。此カルテルの期限は1940年6月末迄で輸出割當及び價格協定を行ひ、本部はホット・ロール・フープ・カルテルと同様ベルギーのリエージュに置くこととなつた。
- 24日 衆議院豫算總會に於て軍事扶助費追加豫算に關聯し廣瀬厚相は軍事扶助の現状につき次の如き説明があつた。現在軍事扶助を受けてゐる者昨年末現在425,000戸(1,558,000人)軍事扶助費は13年度當初豫算では54,150,000圓を計上し12年11月に豫備費より8,000,000圓、12月に8,800,000圓を支出した。更に今回16,500,000圓を追加、合計87,450,000圓となる。
- 25日 フランコ軍は伊國義勇兵の援助の下に人民戰線軍首都パロセロナ市近郊2kmに迫り三方より包圍態勢をとり猛撃中なりと。

- フランスはスペインに於ける人民戦線軍の敗退に關し今後は英國と協調して戦後イタリーがスペインを勢力範圍となす事を極力防止すべく外交方針を執る事に國論の一致を見ていると。
- 昭和12年7月を基準とする東京市の1月中労働者生計費指數は1140で昨年12月に比し1分1厘、前年同期より8分9厘の上昇を示した。又給料生活者生計費指數は1128で昨年12月より1分、前年同期より8分の上昇である。
- 帝國政府は杉村駐佛大使の後任として谷公使を起用する事に決定し、我政府のアグレマン要請に對し佛國政府は谷氏の言動及び其の抱懐する思想は佛國に對し非協動的なるものありとの理由の下に之を拒否する態度に出たるを以て、我方は當分の中正式大使の任命を見合せることとなつた。
- 26日 ベスレム製鋼會社は昨年第4期(10~12月)の業績を次の如く發表した。
- 純益 3,658,000 弗 (第3期 447,000 弗、前年同期 4,253,000)
- 配當 普通株無配、7分利付優先株1弗75仙、5分利付優先株25仙、何れも据置。
- 操業率 現在の製鋼作業率は全能力の51%
- 獨逸鐵鋼協會發表 12月中の獨逸鉄鐵生産高は1,596,000t 鋼1,944,000t
- 米國1級屑鐵相場はピツツパーク消費者渡 15弗50仙~16弗、輸出向紐育解渡 12弗50仙、レール屑輸出向ボストン貨車渡 14弗(保合)
- フランコ軍は人民戦線首都バロセロナを占領す。
- 北京、天津、上海、漢口等新興支那各地に互る政治、財界、教育、交通等凡ゆる官民有力團體によつて和平救國會なる新團體が結成された。
- 吳佩孚將軍は民衆の熱烈なる出馬要望あり又時局を洞察して遂に和平救國運動に乗出すこととなり全國に通電を發す
- 27日 チェッコ政府はスペインフランコ政權を正式承認することとなりたる旨公表した。
- 29日 本日倫敦より歐洲鋼材市場に關し次の如き入電ありたり。
- 英國 本年1月より6月迄の内地建値7分~9分引下げし爲内地取引稍々増加せるも、入用買に止まり、政府の防空避難所用板、ライトセクションの供給目立のみにて輸出不振。
- 獨逸 11月に鐵使用制限令を發し、1月20日更にオーストラリヤをも包含することとなりたる爲、軍需外の内地消費の激減は免れず。然し昨年生産高は23,300,000tにて1昨年より500,000tの増加、今年は更に26,700,000tを豫算されてゐる。バルカン外歐洲諸國と協定締結の機運あり。
- 白耳義、佛蘭西 共に輸出不振。
- 一般に國際情勢不安により輸出全く不況。
- ブリキ 英國の昨年の生産は10,600,000箱、輸出3,600,000箱にして1昨年の夫々6割6分、3割7分にしか達せず、本年初より協定値段箱當9片方と内地向稍々好轉せる外、輸出は依然振はず。
- 獨逸全體として輸出は減少せるも、歐洲一部市場及び南米向に見るべきものあり、今後も商談好轉豫想され、日本向運賃はt當り45志なるも近く引下げの協議ある模様。
- 30日 日本鐵鋼販賣株式會社では創立委員會を開き資本金30,000,000圓、第1回拂込、株式拂込期日2月15日株式

割當比率はメーカー6、指定商2、全鋼商1、第一シャーリング1等の諸事項を決定した。

○衆議院豫算總會に於て板垣陸相は事變の長期建設に即し相當長期に互り駐兵の考慮と準備ありと言明し又米内海相は中南支の占領地は之を確保し東亞新秩序の建設に貢獻をなすと述べた。

○吳將軍は和平救國會の推薦により綏靖委員會を組織し、自ら委員長となり、軍隊を編成して抗日戦下の各將領軍隊に呼びかけ司令部たる委員會本部を開封に置くこととした。

○昭和12年7月を基準100とする全國主要24市平均の本年1月分労働者生計費指數は1144で、昨年12月より9厘又前年同期に比べて9分6厘の昂騰である。尙全國主要10市平均の本年1月分給料生活者生計費指數は1135で昨年12月より8厘、前年同期より8分9厘の昂騰である。

31日 米國商務省は12月中米國鉄鐵輸出高を21,000t、屑鐵は321,000tと發表した。

2月

2日 衆議院の鐵の輸入税免除法改正案委員會に於いて小金鐘山局長より次の如き應答があつた。

1. 龍烟鐵鐵の内地輸入に關する收支について輸送力關係から充分ではないが最近漸次増加しつゝ又採算も充分とれてゐる。

1. 南洋、濠洲、マレイ、印度等より鐵鐵石の輸入に關し將來對策を必要とするが如き状態に到れば充分の對應策を樹てる覺悟がある。

1. 大冶鐵山の現況に關し同鐵鐵は赤鐵鐵、磁鐵鐵等で品質良好であるが之について詳言する事は差控へる。

1. 茂山鐵山の經營については大體國策會社の支配下に置き國策的に有效適切に經營すべきである。

1. 鐵鋼の配給と闇相場取引について製造業者の拔賣等から來るものは現在全然行はれてをらぬ又其統制に就ては賣買双方の懇談の形式により萬全を期す。

1. 鉄、鋼、屑鐵の配給に就いては事變下にある關係上軍需方面への供給が優先的となり従て民需方面は窮屈化するの免れない。15年以降の見通しは言明出來ないが、本年度は昨年よりも鉄、鋼、スクラップ共に1、2割方の減少を餘儀なくされるものと豫想され度しと。

3日 米國1級屑鐵相場はピツツパーク消費者渡 15弗25仙~16弗(前月26日入電 15弗50仙~16弗)同輸出向紐育解渡 12弗~12弗50仙(保合)レール屑輸出向ボストン貨車渡 13弗50仙(14弗)。屑鐵市況は稍々軟化し少量の國內筋の買物が見られる程度であると。

4日 今回釘、針金、鐵線の三品目は配給統制さるゝ事になり臨時物資調整局第一部長より地方廳に對し次の如き通牒が發せられた。

1. 釘、針金、鐵線の製造業者は兵庫、大阪、愛知、福岡の各府縣線材製品工業組合を以て組織する日本線材工業組合聯合會をして統制に當らしむ。

1. 販賣業者(イ)指定問屋は工業組合聯合會之を選定し東京、大阪別に商業組合を組織し製造業者として地方問屋に對する配給並に大口需要及び官廳需要に對する配給に當る。(ロ)地方問屋は工業組合聯合會之を選定し各府縣別に商業組合を組織し各府縣別に査定された小口需要に對し地

方廳の監督下に配給を擔當す。

1. 商工省監督下に線材共販代表、各工業組合理事長、東西問屋代表を以て釘、針金、鐵線配給協議會を組織し、統制三品目の生産比率、府縣別小口需要、大口需要及官廳需要の査定及び之に對する配給量の割當等其他統制に必要な事項を決定す。

1. 販賣價格は商工省の指示に従ふものとす。

5日 US スチール會社の昨年第4期の業績は次の如し。

配當 7分利附優先株(額面100弗)は1株に付1弗75仙(据置)普通株無配(据置)。

損益勘定 純益 4,394,000 弗, 前年同期に比し 5% 前後の減少を示した。昨年全體として 7,756,000 弗の缺損である。(1昨年 99,931,000 弗の純益)

鋼材積出高 2,037,000t で第3期より 500,000t の増, 昨年中の總積出高 6,625,000t (1昨年 12,748,000t)

使用労働者數 昨年中平均 202,108 人 (1昨年 261,293 人)

貸銀支拂高 昨年中合計は 282,000,000 弗 (1昨年 443,000,000 弗)

職工平均收入 昨年中の職工1人1時間當平均收入 90 仙 2 (1昨年 86 仙 4)

○本年 1~3 月間の日本鐵屑統制會社が指定商よりの主なる鐵屑買入價格は次の如し。

- 1 級品 (平爐用) 97 圓 (電氣爐用) 100 圓
- 2 級品 (平爐用) 94 圓 (電氣爐用) 97 圓
- 3 級品 (平爐用) 90 圓 (電氣爐用) 93 圓
- 級外品 (平爐用) 80 圓 (電氣爐用) 80 圓

此の電氣爐用の中にはルツボ、再生銑鐵用化學工業合金鐵用を含み此價格は會社指定の受渡場所着のものとし、運賃は會社の定むる率により指定商に支拂ふものとす。

○フランコ軍の壓迫によりフランス國境に追ひつめられた人民戰線軍は遂に其壓迫に抗し兼ねて約 20 萬の將士はカタロニア州を棄て、佛領へ雪崩の如く遁入せりと。

6日 日鐵の臨時建設局清津支部は朝鮮咸鏡北道鏡城郡龍城面松郷洞 295 に事務所を移轉した。

7日 今週の米國製鋼作業率は全能力の 53.4% と見積られ前週より 0.6% の増加である。本日 US スチール株は 58 弗 5/8。

○鋼材共販では臨時總會を開催し、大谷製鋼所、東邦鋼業株式會社の新規加入を承認せり。同理事會では販賣價段は据置と決定した。

○棒鋼共販第 2 部理事會では壓延棒鋼 4, 5 月積販賣價段は据置と決定した。鍛造棒鋼販賣價段については審議の結果次の通り決定す。(4, 5 積)

(イ) 丸鋼及角鋼 (但シリダクシオンエリア最少限度 4 倍のものに當)

	100-150 mm	150mm 超 -200mm	200mm 超 -300mm
半軟, 半硬鋼	440 圓	500 圓	535 圓
硬 鋼	455 圓	515 圓	550 圓
最 硬 鋼	470 圓	530 圓	565 圓

(ロ) 平鋼 各鋼質共丸角鋼值段の 1 割増の事。

(ハ) 取扱店の口錢 鍛造棒鋼に限り建値の 1 割以内とす

○半製品共販第 2 部理事會では 4, 5 月積の販賣價段は据置と決定した。

8日 ビツバークの有力製鋼會社は前週ヨーロッパから記録的多量の引合に接したと云はれ又一方屑鐵市場も市況戻りて若干の間屋筋では現在の相場で賣ることを拒否してゐると

9日 フランコ軍は拂曉西地中海上の戰略地點たるミノルカ島西海岸シウダレラ港の敵前上陸に成功したと。

10日 大本營陸軍部發表による 1 月中の北支方面に於ける我軍の討伐綜合戰果は次の如し。

敵遺棄死體約 17,000, 捕虜約 550, 鹵獲品小銃 1,130, 輕機重機各 40, 小銃彈藥約 10,000, 戰車 45, 等其の他多數 此に對し我が損害は戰死 116, 戰傷 353。

○大本營海陸軍部公表 我が海陸軍の精銳部隊は今曉緊密なる協同の下に海南島の奇襲上陸に成功し目下進撃中なり。

○大本營陸軍部發表 海南島上陸部隊は首都瓊山、同島第一の都會海口を占領せり。

○1月の全國名目賃銀指數(大正 3 年 7 月基準)は 301.1 と前月に比し 2 分 1 厘の昂騰を示した。實質賃銀指數も生計費指數が微落したため前月より 2 分 1 厘の昂騰を示し 142.8 となつた。

○1月の東京卸賣物價指數は 259.0 と前月より 1 分 5 厘の騰貴を示す。

○豫て設立計畫中の日本鋼材販賣株式會社は本日發企人會を開催し中井設立委員長より設立經過報告あり次で定款株式の割當其他設立に關する諸事項を審議し大體次の如く決定した。

1. 名 稱 日本鋼材販賣株式會社
2. 目 的 主なるものは本社と特約をせる製鐵業者の生産した鋼材の購入販賣並に輸入。
3. 資本金及株式 30,000,000 圓にして株式は 600,000 株とし 1 株の金額を 50 圓とす。而して第 1 回拂込は 25 圓此株式はメーカー (28 社) 360,000 株, 指定商 (8 社) 130,000 株, 指定問屋 (56 店) 80,000 株, 第一シャー (13) 6,500, 日本鋼材聯合會 235,000 株の割合で出資す。
4. 役 員 取締役 12 名以内, 監査役 3 名以内。
5. 所 在 本店は東京市(丸ノ内岸本ビル)支店は大阪市, 八幡市。

為 替 相 場

12 月 下 旬			1 月 上 旬			1 月 中 旬			1 月 下 旬			2 月 上 旬		
區分	對 英	對 米	區分	對 英	對 米	區分	對 英	對 米	區分	對 英	對 米	區分	對 英	對 米
12 21	1/2	27~3/16	1 2			1 11	1/2	27~1/4	1 21	1/2	27~1/4	1 1	1/2	27~1/4
22	"	"	4	1/2	26~15/16	12	"	27~3/16	23	"	"	2	"	"
23	"	"	6	"	27~1/8	13	"	27~1/4	24	"	"	3	"	"
24	"	"	7	"	27~1/4	14	"	"	25	"	"	4	"	"
26	"	"	9	"	"	16	"	27~1/4	26	"	"	6	"	"
27	"	"	10	"	27~3/16	17	"	"	27	"	"	7	"	27~5/16
28	"	"				18	"	"	28	"	"	8	"	"
29	"	"				19	"	27~5/16	30	"	"	9	"	"
						20	"	27~1/4	31	"	27~5/16	10	"	"

歐洲鐵鋼業の販賣機構 (2)

4. 其の他の國際カルテル

前號に於ては、國際鐵鋼聯盟 E·I·A を中心として、直接或いは間接に其の統制を受ける國際カルテル及び國內カルテルに就いて述べて來たが、此處には E·I·A から全然獨立して居り且つ各々その成立の事情をも異にする其の他の國際カルテルに就いて、簡単に述べることにする。既に述べた處によつても明らかなやうに、E·I·A は甚だ廣範圍の製品を其の統制下に置いてゐるのに反して、此處に述べようとするものは、單に一種類の品種に關するカルテルである。

軌條カルテル 最初の國際軌條カルテルは、1883年に英國、ドイツ、ベルギーによつて組織されたが、これは 1886年に輸出割當に關する協定に失敗した爲に解散した。1904年には此のカルテルは更にフランス及びアメリカを加へて復活し、大戰勃發後活動を續けた。

戰後に新しい軌條カルテルが復活したのは 1925年で、1926年春ロンドンに事務所を開設し、注文の分配を行ふ事となつた。26年10月英國、フランス、ベルギー、ルクセンブルグ間の協定成立によつて、それ迄暫定的のものであつた此のカルテルは愈々正式のものとなつた。其の後間もなくドイツがこれに加入し、チェコスロヴァキア、オーストリア、ハンガリー等もやがて加入した。此のカルテルは 36lb 以上の軌條及び繼目板其他附屬品の輸出を統制し、又4半期毎に其の最低價格を決定するものであつた。

1929年4月1日には、アメリカの主な軌條メーカーの組織する鐵鋼輸出協會 Steel Export Association をも正式に加へて新しい協定が結ばれた。此協定の有効期間は 1935年3月31日迄であつた。満期後もカルテルは暫定的に延期され、35年夏には改めて5ケ年の協定が結ばれ、これにはポーランドも參加した。1937年夏にはイタリーも遂に參加した。

軌條に關する國際カルテルは、上述の種々の時期を通じて、概して輸出價格の安定に成功した。たゞ 1931年から35年の期間は、アウトサイダーの市場攪亂によつて、カルテルの威力は可成り減殺されたやうである。此のアウトサイダーは主としてポーランドであり又それほど強力なものではなかつたがイタリー及びスウェーデンも之に加はつた。然しポーランドの加入によつて、カルテルは再び其の統制力を復活したのである。

鋼管カルテル 鋼管の國際カルテルは最初 1925年に、ドイツ鋼管カルテル、チェコスロヴァキア鋼管カルテル及びポーランド領上シレジアの大メーカーの間に中歐鋼管カルテル Central European Tube Cartel として結成された。更に同年ヴェルサイユ平和條約中の過渡的條項の満期消滅した爲に、フランス、ベルギー、ザール及びハンガリーが 26年6月にこれに加入し、これ以後は大陸鋼管カルテル Continental Tube Cartel と稱せられる事となり、本部をデュッセルドルフに置いた。此のカルテルは國內向、輸出向の兩者を含む販賣割當を行ひ、割當超過に對しては罰金を課し、輸出價格の決定、注文の分配、輸出代金の計算及び調整、國內市場及び特定の海外市場の留保等の業務を行つた。更に又 1926年には英國のコンツェルンと短期協定を結び 1927年にはポーランドの非加盟メーカー3社との間に輸出のみに關する協定を結び 1928年初めてはアメリカのメーカー團と石油管に關する協定を結んだ。

此のやうにして、此のカルテルは中歐鋼管カルテル時代に較べて數段の發展をしたが、更に價格統制を一層強化すべく、1928年12月17日には英、米及びカナダのメーカーとの間に暫定的協定を結ぶ事に成功した。1929年4月には此の協定は、1928年12月17日迄遡及

し 1935年3月31日迄繼續す可き正式協定にまで進んだ。斯うして大陸鋼管カルテルを包含する新組織が成立した譯であるが、之は一般に國際鋼管カルテル International Tube Cartel と呼ばれてゐる。新組織は單に輸出最低價格及び特定種類の鋼管に對する輸出割當を行ふに止まるものである。之には4種の協定があつた。(1) 直徑6"以下各種ガス管及び水道管に關する一般的協定。(2) 石油業に使用される凡ゆる鋼管に關する輸出割當。(3) 國內市場の留保に關する協定。(4) 南アフリカ市場に關する協定がこれである。

其の後カルテルはその統制する品種を若干擴大した。一方割當の問題に關して、數度紛争を惹き起した事もあつたが、妥協によつて事無きを得たばかりでなく、海外市場に於ける競争者として出現して來た日本及びスウェーデンとも、1933年には特殊の協定を結ぶに到つた。然るに一方ドイツの國內市場は、此の頃になつて急速に膨脹を續けてゐた。ドイツのメーカーは自國の需要増加分を他の大陸鋼管カルテル加盟國に分配する事に不満を有ち、屢々抗議を行つてゐたが成功しなかつた。1935年ドイツのザール併合に際して、割當問題に絡んでドイツの不満が爆發し、こゝに遂に大陸鋼管カルテル、從て國際鋼管カルテルは崩壊した。

カルテル分裂の結果は價格の下落とドイツ、ベルギー等の輸出増加といふ事態を惹起し、これに對處する爲に各國政府は鋼管に對する輸入制限を強化した。此處に到て、國際鋼管カルテル復活の必要が痛感され、努力の結果 1937年初めになつて此の努力は實を結んだ。新協定は輸出物の價格及び販賣條件に關して規定し、又國內市場は其の國のメーカーの爲に留保する事を規定してゐる。此の協定には北アメリカのメーカーは參加せず、その代りに日本が 1938年2月末には脱退し得る事を條件にして參加してゐる。

線材及び線製品のカルテル 線材カルテルは、最初 1927年6月にドイツ、フランス、ベルギー、ルクセンブルグによつて線材に關する假協定が結ばれ、これが基となつて後に正式の協定となつて此處に成立したものである。カルテルは本部をリエージュに置き、存續期間は 1927年10月に遡り、1931年末迄と決定された。その業務は生産の割當、最低販賣價格の決定、並に國內及び若干の外國市場の留保等であつた。此のカルテルは満期に先だつて 1931年11月1日に、存續期間を 1936年末まで延長された。

これより曩、線材カルテルと並んで線製品シンジケートが結成されてゐたが、これは 1927年10月1日に満期消滅してゐた。それ以後、此のシンジケートを復活しようとして盛んに商議が行はれてゐたが、1931年11月30日に至て、此の努力が實現され、線製品シンジケートも線材カルテル同様、1932年1月1日から 1936年末迄を存續期間として、復活する事となつた。此のシンジケートは中央販賣事務所をブラッセルに置き、各種の線及び線製品に關して統制を行ふものである。前號に於ても少しく觸れたが、IWECO (International Wire Export Company) と云ふ名稱は元來此の線製品シンジケート Wire Products Syndicate の中央販賣事務所なのであるが、轉じて此のシンジケート自體の名稱となつたものである。此のシンジケートは全販賣(生産)數量の割當及び販賣價格の決定を行ふ事となつた。

線材カルテル線製品シンジケートとは成立の初めから密接な關係にあり、特に價格政策及び輸出市場の發展策等に就いては、緊密な聯絡をとつてゐた。即ち最初價格制に就いては、一律な價格制を探てゐたが、これでは種々不利益もあるので、32年9月には一層フレキシブルなものとする爲に、市場の條件等を考慮して差別を附する事とし、兩者揃て差別價格制を採用する事となつた。

これ等のカルテルには尙強力なアウトサイダーがあり、これ等の

競争の爲に價格引下げを餘儀なくされた事もあり、旁々種々アウトサイダーとの協定に對して努力が拂はれた。1932年にIWECOはアメリカと非公式の價格協定を結んだ。35年5月にはポーランドが此の二つのカルテルに加入した。36年3月にはIWECOはスウェーデン及び英國と特殊の協定を結び、同12月にはオーストリア線及線釘カルテル Austrian Wire and Wire-Nail Cartel を加入せしめ、更に其の後チエツコスロヴアキアをも加入せしめた。線材カルテルは35年及び36年に一つの危機に遭遇した。それはベルギー及びフランスの新工場増設による割當増加要求に對して、既に現在の割當にすら不安を有つてゐたドイツが強硬に反對した爲である。然し此の危機はフランス及びベルギーの讓歩によつて無事脱せられた。

此の二つのカルテルは36年末を以て満期消滅する事になつてゐるが、36年10月14日IWECOは5ヶ年の延長が決定された。線

材カルテルは27年2月1日迄延長され、更に37年12月には、その業務を輸出統制のみに限り、38年6月末まで延長された。

ブリキカルテル 1930年前に於ては、ブリキの主要輸出國は英國及び米國であつた。1928年には此の二國間に輸出協定が結ばれてゐたが、1931年の磅下落の爲に此の協定は破れた。

其の後弗の平價切下後、1934年7月1日に到てカルテルが結成された。所謂國際ブリキ組合 International Tinplate Association であつて本部をロンドンに置き、ブリキに關する輸出價格の決定及び輸出割當を業務とする。加盟國は最初英國、米國、ドイツ、フランス(ザールを含む)の4國であつたが、此の年の10月にはノルウェーの唯一のブリキコンツェルンが加入し、35年1月にはイタリアが加入した。

上述各カルテルの加盟國に對する割當比率は別表の通りである。

主要國際鐵鋼カルテル加盟國割當表

	軌 條			鋼 管			線 材	線製品	ブリキ	各 種 鋼 材	
	國際(又は歐洲)軌條生産者組合(1)			中歐鋼管カルテル	大陸鋼管カルテル(Abise)	國際鋼管カルテル				國際粗鋼カルテル(2)	國際粗鋼輸出カルテル(3)
存 續 期 間	1883~86	1904~14	1926以後	1925~26	1926~35	1928~35	1927以後	1932以後	1934以後	1926~33	1933以後
割 當 の 種 類	輸 出			生 産			生 産	全販賣	輸 出	生 産	輸 出
割 當 の 日 時	1883	1914	1935 12	(6)	1926 6, 11	1928 12, 17	1927 10, 1	1932 1, 1	1935 1, 8	1927 4, 1	1935 8, 1
加 盟 國	加 盟 國 割 當 比 率 (%)										
ルクセンブルグ	27	23.13	4.1	—	—	—	6	—	—	8,301	21.2
ドイツ			16.6	82.0	60.7	—	57	50.7	16	43,176	29.2
フランス	—	9.00	14.7	—	25.3	—	23	5.1	7	5,782	—
ベルギー	7	11.11	7.4	—	—	44.0	14	33.3	(8)	31,181	20.6
チエツコスロヴアキア	—	—	* 1.8	14.8	10.9	Abise (7)	**	5.7	—	11,560	29.0
オーストリア	—	**	* 2.8	—	—	—	**	*(不明)	—	*(4,880)	**
ハンガリー	—	—	—	—	0.7	—	**	0.8	—	*(1,405)	**
ポーランド	—	—	* 10.0	3.2	2.4	—	* (8)	*(5.7)	—	—	* (3)
イギリス	66	33.63	23.5	—	—	33.60	—	**	55	—	**
合衆國	—	23.13	* 13.25	—	—	20.16	—	**	22	—	**
カナダ	—	—	—	—	—	2.24	—	—	—	—	—
オランダ	—	—	—	—	—	—	—	3.8	—	—	—
デンマーク	—	—	—	—	—	—	—	0.6	—	—	—
イタリア	—	—	*(不明)	—	—	—	—	—	*(8)	—	—
ノルウェー	—	—	—	—	—	—	—	—	*(1年 3,000t)	—	—
スウェーデン	—	—	—	—	—	—	**	**	—	—	—
日本	—	—	—	—	—	—	**	—	—	—	—
計	100	100.00	94.15(9)	100.0	100.0	100.0	108	105.7	100	107,310	105.0

註 (1) IRMA=International Rail Makers' Association (合衆國を含む) 又は ERMA=European Rail Makers' Association (合衆國を含まず)

(2) IRG=Internationale Rohstahlgemeinschaft

(3) IREG=International Rohstahlexportgemeinschaft

(4) ガス管、水道管、石油管に關して輸出統制が行はれて居り、後に機關車用及びボイラー用鋼管も統制に入つたが、下の數字はガス管及び水道管のみに關するものである。

(5) 生産割當の外に輸出割當も別に行はれてゐた。

(6) 此の割當の日時は詳細不明である。下の數字は大陸鋼管カルテルの割當によつて算出したものである。

(7) 此の割當は大陸鋼管カルテル (Abise) に對してその加盟國全部の綜括的割當として割當てられたものである。但しオーストリアは加盟してゐない。

(8) フランスとイタリアの兩者合計にて7%の割當である。

(9) 残りの58.5%はフランス及びルクセンブルグに工場を有するベルギーのコンツェルンの割當であると推測されてゐる。

* カルテル結成後加入したもの。

** カルテルに加入せず、單に協定を結んだもの。

() 括弧内の數字は合計を100とする最初の割當中には含まれず、後から之の追加として割當てられたものである。從て之等のものを最初の割當に加へれば合計は100以上となり、之を分母として按分比例したものが眞の百分率を示すわけである。

1938年の世界鐵鋼業の情勢 (I)

概観 1937年秋から既に落潮の途を辿りつゝあつた世界鐵鋼業は、さしてはかばかしい恢復の兆を見ずに38年のスタートを切たが、春にドイツが突然オーストリアを併合して世界に大衝動を與へるに及んで、前途多難を思はせるに至つた。其の時以來、將來の情勢に對する不安の爲に、國際取引は益々萎縮した。夏には戰爭の影が全歐洲を蔽ひ、不安は頂點に達した。而も此の危險が間近に迫つた時に、突然急激な買付が起つた。即ち9月の半頃大陸カルテルは多量の注文を入手した。注文は特に遠東からのものが多かつた。これは戰爭が勃發すれば歐洲からの供給は杜絶するかも知れないといふ心配からであらうと思はれる。

昨年中を全體として見れば、鐵鋼の輸出取引は不振であり、而も大部分の國は高率の生産を行つて居ただけに、競争が激化した事は想像に難くない。従て歐洲の鐵鋼カルテルによつて打建てられた價格機構が弛んで、協定價格に對する割引が自由に行はれたのも自然の事であつた。殊に大陸及びイギリスの輸出業者に最も強く影響したのは、廉價を以て市場を脅かすアメリカの競争であつた。

アメリカ及びヨーロッパ鐵鋼業の代表者の間の協商が容易に一致せず延び延びになつたので、歐洲鋼カルテルは若干の製品に對して、又若干の市場に對して、輸出價格の引下げを行つた。然し年末近くなつて、アメリカ市場の恢復と二三外國市場の需要の復活の爲に情勢は幾分好轉した。

價格を公定價格の水準に保つ事の出来なかつたのを別とすれば、歐洲鋼カルテル及び其の所屬の國際カルテルは可成り満足な成果を收めた。さうして6月末日を以て期間満了の後1940年まで延期された。現在の情勢では割當が超過する心配は殆んどない。唯カルテルが現在直面してゐる問題は、ドイツ、ポーランド及びチェコスロヴァキアの割當を如何に調整するかと云ふ問題である。又現在、輸出市場の分割及び競争による價格引下げ回避の爲に、スカンディナヴィアン・グループ、オランダ及びイタリーとも商議が行はれてゐる。

輸出貿易に頼る處の多い國にとつて少からず不安な傾向が、近頃若干の國々に表はれてゐる。それは現在迄その鐵鋼需要の大部分を輸入によつて満たしてゐた國々に、自國に鐵鋼業を興して自給を圖らうとする傾向のある事である。その最も著しい例は恐らくトルコであらう。又ルーマニア、オランダ、南アフリカ等の諸國は現存の鐵鋼業を擴張しようとしてゐる。さうは云ふものゝ、之等の發展の結果が、從來供給を受けてゐた國々から獨立して、自給自足し得る迄になるかどうかと云ふ事は疑問である。又最近のドイツの生産力の擴張はめざましいものであるが、現在既にヨーロッパ第一の鐵鋼輸出國たるドイツが、此の生産力擴張の結果、將來鋼塊年産25,000,000tにも達した場合は、如何なる事態に立ち到るかといふ事も亦一つの大きな問題である。

確かに鐵鋼の需要は將來全世界の廣汎な分野に互て激増するであらう。さうして現在行はれてゐる生産力の擴張は、此の需要の増加

によつて均衡を得るものと考へられて居るけれども、然し此の潜在的な需要は現在世界の政治的不安の爲に抑制されて居り、而も今のところまだ、遠東及びスペインに於ける戰亂が終息する兆候は見受けられない。歐洲に於て平和政策が採られるであらうといふ希望がミューニッヒ會議直後起つてゐたが、それも其の後漸次薄らいでしまつた。

若干の國に於ては、國內の條件も亦取引の増大にとつて不利であつた。イギリスの市場は銑鐵及び半製品のストックが山積し、それが生産及び取引に甚しい悪影響を與へた。又その一つの結果として4月以來外國鐵鋼の輸入は急激に減少した。英國鐵鋼聯盟は國內價格を變へないといふ約束を年末まで守た。二三の品種に就いては價格の引上げが行はれたが、然しそれは英國製品のみを買ふ需要家に對しては同額の割引を行ふ事によつて償はれた。

イギリスの價格政策は或る方面、特に造船業者、自動車業者方面から非難されてゐる。彼等の言ひ分は、現在の世界の競争状態では、イギリスの鐵鋼の國內價格は餘り高すぎるといふのである。もしも價格政策が或る程度まで變へられてゐたならば、年末にはもつと多くの取引が行はれてゐたであらう。39年の始めから價格の引下げが行はれるだらうといふ豫想から手控へられた契約は可成りの數量に上るやうである。イギリスの鐵鋼の國內價格は生産費に基づいて決定されて居り、此の生産費が減少する傾向は殆んどなかつたから、公定價格から、大きな割引が行はれたやうな事實は餘りあるまいと思はれる。

フランスは昨年中政治的な動搖に災ひされた。さうして其の財政は益々悪化した。鋼塊生産高は殆んど最低の年である1932年の水準まで下つた。輸出貿易も亦思はしくなかつた。フランスが鐵鋼生産國の間に於ける以前の地位を恢復する爲には、餘程思ひ切つた手段を採るより外には途はあるまい。ベルギー及びルクセンブルグは其の鐵鋼取引の大部分が輸出貿易にあるだけ輸出の減少によつて甚しい打撃を蒙つた。

ドイツは確かに最も活況を得た國であつた。世界的な不況の中にあつてドイツは盛に生産力の擴張を行つたが、而も尙此の生産力の大擴張を以てしても、尨大な國內需要に應じきれなかつた事は明きらかである。ドイツの採つてゐる擴張政策はそれは又それで別個の容易に解決し得ない問題を有てゐる。イタリーも亦世界鐵鋼業の生産減少の間にあつて、前年よりも生産を増加してゐる。此のやうに一方に過剰生産に悩む國々があるのに、他方には擴張又擴張を以てしても満たしきれぬ尨大な需要を擁する國々があり、而も其の間に有無相通ずる財貨の流通が起らぬといふ事は、世界經濟の全き聯繫が斷たれた事を意味し、近時の世界經濟の不健全な斷面を示すものである。

次に参考の爲世界の銑鐵及び鋼塊生産高並びに主要國の鐵鋼輸出入高の表を掲げる。

第1表 世界鋼塊及鑄鋼生産高表 (單位1,000t)

	1938	1937	1936	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929
合 衆 國	29,183	51,526	48,525	34,467	26,502	23,252	13,681	25,945	40,699	56,433
カ ナ ダ	1,160	1,352	1,078	915	741	403	335	671	1,009	1,391
イ ギ リ ス	10,500	12,984	11,785	9,859	8,850	7,024	5,261	5,203	7,326	9,636
フ ラ ン ス	5,845	7,793	6,601	6,177	6,075	6,427	5,550	7,697	9,296	9,544
ベ ル ギ ー	2,210	3,807	3,117	2,975	2,901	2,687	2,745	3,073	3,300	4,066
ル ク セ ン ブ ル グ	1,385	2,470	1,949	1,808	1,901	1,815	1,925	2,002	2,234	2,659
イ タ リ ー	2,330	2,054	1,992	2,174	1,820	1,755	1,369	1,430	1,746	2,109
ス ペ イ ン	300	100	365	555	635	498	525	594	910	985

スエーデン	950	1,088	962	882	848	620	520	530	601	688
ドイツ*	22,900	19,531	18,900	16,184	11,725	7,690	5,678	8,136	11,354	15,986
オーストリア**	90	640	411	358	304	222	201	317	461	622
チェキア§	1,800	2,254	1,463	1,135	933	749	662	1,490	1,721	2,103
ポーランド§	1,550	1,433	1,123	930	831	805	542	1,020	1,217	1,355
ハンガリー	650	654	543	439	310	224	177	311	363	505
ロシア	18,000	17,535	16,080	12,320	9,412	6,790	5,900	5,333	5,610	4,828
日本	6,000	5,700	5,174	4,858	3,682	3,150	2,300	1,834	2,288	2,249
インド	900	895	866	862	798	694	570	625	619	575
オーストラリア	870	900	750	697	518	393	221	360	420	460
ザール§§	1,919	1,649	1,440	1,513	1,904	2,174
其他	900	900	800	750	450	350	300	350	400	400
合計	107,523	133,616	122,484	98,345	81,160	67,177	49,902	68,434	93,478	118,763

* 1938年3月15日以後はオーストリアの生産高をも含む。 ** 1938年の数字は3月15日までのものであつて、それ以後のものはドイツ中に含まれる。 1938年の總生産高は凡 675,000t と見積もられてゐる。 § テツシエン地方がポーランドによつて併合された爲に、1938年10月以後のトリネツク製鐵所 (Trinec works) の生産高凡 100,000t だけ、チェキアが減じポーランドが増した。 §§ 1934年以後はドイツ中に含まれる。

第2表 世界銑鐵及合金鐵生産高表 (單位 1,000t)

	1938	1937	1936	1935	1934	1933	1932	1931	1930	1929
合衆國	19,507	37,127	31,029	21,373	16,139	13,346	8,781	18,426	31,752	42,614
カナダ	760	979	747	655	438	258	160	466	813	1,160
イギリス	6,800	8,493	7,721	6,424	5,969	4,136	3,574	3,773	6,192	7,589
フランス	5,800	7,787	6,130	5,696	6,053	6,223	5,448	8,068	9,874	10,193
ベルギー	2,380	3,782	3,110	2,982	2,860	2,667	2,705	3,180	3,311	4,030
ルクセンブルグ	1,600	2,472	1,955	1,842	1,968	1,858	1,929	2,020	2,433	2,860
イタリア	940	849	793	683	564	544	481	532	569	718
スペイン	250	110	250	350	365	334	296	468	606	740
スエーデン	645	682	623	603	550	341	277	411	488	516
ドイツ*	18,200	15,703	15,058	12,637	8,602	5,183	3,870	5,964	9,540	13,187
オーストリア**	50	383	244	190	132	87	93	143	232	455
チェキア§	1,250	1,643	1,122	793	591	491	443	1,146	1,414	1,618
ポーランド§	965	712	575	388	376	301	196	341	470	693
ハンガリー	345	352	301	183	138	92	65	157	253	362
ロシア	14,700	14,288	14,038	12,411	10,273	7,085	6,101	4,782	4,920	4,253
日本	3,000	3,000	2,823	2,739	2,400	2,019	1,525	1,385	1,635	1,491
インド	1,700	1,629	1,543	1,466	1,331	1,065	914	1,072	1,180	1,343
オーストラリア	710	850	783	698	487	336	190	380	308	420
ザール§§	1,797	1,567	1,327	1,491	1,881	2,071
其他	1,200	1,200	1,000	800	700	600	700	800	750	750
合計	80,802	102,046	89,895	72,918	61,733	48,533	39,075	55,005	78,671	97,073

* 1938年3月15日以後はオーストリアの生産高をも含む。 ** 1938年の数字は3月15日までのものであつて、それ以後のものはドイツ中に含まれる。 1938年の總生産高は凡 525,000t と見積もられてゐる。 § テツシエン地方がポーランドによつて併合せられた爲に、1938年10月以後のトリネツク製鐵所 (Trinec works) の生産高凡 75,000t だけ、チェキアが減じポーランドが増した。 §§ 1934年以後はドイツ中に含まれる。

第3表 主要國鐵及鋼輸出入高 (單位 1,000t-スクラップを除く)

	輸 出					輸 入				
	1938	1937	1936	1935	1913	1938	1937	1936	1935	1913
合衆國	2,100	3,472	1,233	1,020	2,618	240	452	528	405	273
イギリス	1,900	2,576	2,203	2,372	4,969	1,350	2,039	1,483	1,152	2,331
ドイツ	2,680	3,604	3,550	3,089	6,200*	655	532	508	635	300*
フランス	1,810	2,133	1,575	1,842	640	95	170	173	170	185
ベルギー及ルクセンブルグ	2,300	3,947	3,190	3,129	1,550†	200	428	423	297	874†
合計	10,790	15,732	11,751	11,452	16,000	2,540	3,621	3,115	2,659	3,963

* ルクセンブルグを含む。 † ベルギーのみの数字。

—イギリス—

1938年のイギリス鐵鋼業は37年と著しい對照を爲してゐる。37年中非常な繁榮を續けてゐた鐵鋼業は年末頃から衰へ始めた。其の當時はそれは一時的な現象に過ぎず、數ヶ月のうちに以前にも勝る活況を得るものと信ぜられてゐた。然し昨年中の情勢の推移を顧みるならば、此の豫想が全然誤てゐたことが判る。需要は減退し滞貨は充満した。昨年中の大部分に亘て生産は縮小を續け、その結果年産額は1934年及び35年の水準まで下落した。9-10月の交に到て情勢は幾分立直つて來たやうであるが、これが何處まで戻るものであるかは未だ疑問である。

イギリス鐵鋼業が昨年9月を頂點とする歐洲政局の危機から衝撃を受けた事は確かである。此の間取引は殆ど停頓してゐた。唯空襲の懸念が増し、防空設備等の必要から、其の方面の需要が増大したが、それも一般の情勢に甚しい影響を與へる迄には到らなかつた。唯此の政治的危機が軍需工業への集中を進め、その結果鐵鋼業及び機械工業が此の方面に依存する事の多くなつたことは確かである。

生産 鋼塊生産高は1937年11月には1,178,800tに達し、近年の最高記録であつたが、それ以後漸落し38年4月には遂に1,000,000t臺を割り、尙月々激減を續けた。此下落傾向は8月を底として、それ以後は僅かづゝ増加してゐるが、これが何處迄恢復するかはまだ疑問である。38年10月迄の鋼塊生産高合計は8,878,100tで、37年の同期間の合計10,681,900tに較べて甚だしい減少である。

銑鐵の生産も鋼塊と同様の傾向を迎へてゐる。即ち37年12月の783,800tを頂上としてそれ以後激減を續け、38年9月には429,800tまで落ちたが、10月にはこれも稍々増加してゐる。38年10月までの銑鐵生産高合計は5,855,400tであり、37年の同期間の數字は6,950,500tである。稼働熔鑪數は37年10月に133であつたが、38年10月末には僅か76にすぎない。

輸入 3月の終りに或る種の鐵鋼に對する輸入税が引き上げられるだらうとの豫想に基づいて、第1、4半期中に大陸から大量の輸入が行はれた。年初來、鐵鋼需要の増大によつて市場が逼迫し、手當がつかなくなるのではないかと懸念の爲に、鐵鋼の消費者はストックの蓄積に努めてゐた。此の消費者の態度の爲に、鐵鋼の生産と輸入とは其の實際の消費を遙かに超え、消費者は龐大なストックを擁する事となり、當初の豫想に反して需要が減退すると共に、これが永く市場を壓迫することゝなつた。ストックが減少し消費者が後の手當を必要とするに到したのは、やうやく10月に入つてからの事であつた。

5月に入つて政府は銑鐵の需給状態が變化して、國內の生産能力及び植民地からの輸入のみで需要を満たし得るに到つた事を認め、33 $\frac{1}{2}$ %の輸入税を復活した。此の關稅は1932年から37年まで實施されてゐたのを、外國からの輸入を容易にして市場の梗塞を救ふ爲に、37年の7月に停止されたものである。

以上の様な事情で、鐵鋼の輸入は最初の4半期には月平均270,000tに達したが、其の後激減して次の6ヶ月の月平均は60,000tに落ちた。一例をとれば、ブルーム及びピレットの輸入は36年9月には29,000t、37年9月には約45,000tであつたものが、38年9月には僅に6,845tにすぎなかつた。

かやうにして、最初の4半期には莫大な數量の輸入が行はれ、これが10月迄の輸入量の大部分を占めるものであつたが、結局10ヶ月の合計としては前年の水準に達しなかつた。即ち10月迄の輸入量合計は36年の1,298,352t、37年の1,482,462tに對して38年は1,224,048tであつた。

需要 昨年中を通じて需要減退の最も著しかつたものは構造用鋼材であつた。1月頃には構造用鋼材の引合は容易に引受けられなかつた。さうして引渡期限は、非常に長くなつてゐた。然し此の状態は永くは續かなかつた。秋には既に若干の大工場は其の能力の60%しか操業してゐなかつたと言はれてゐる。鐵鋼業に影響を與へたいま一つのファクターは、自動車工業の不況であつた。その結果は薄板、ストリップ等の需要減退となつた。

小形鑄鐵製品も其需要が過大に見積られたもの一つであつた。さうして年初に銑鐵を買付けすぎた爲、龐大なストックが鑄物工場に蓄積された。特に建築材料に關する方面に於てこれが甚しかつた。

鑄工業及び鑄物業の中心地たるミドルズブラ地方、ミドランド、サウスウエールズ等に於ても、業者は受註の甚だしい減少にも拘らず一方に莫大な鍛成品用及び鑄物用の銑鐵のストックを擁してゐた。然し此のストックも10月の半頃には減少し始め、年末迄には餘程減少してゐた。

再壓延業も前年には、ピレットやシートバーを充分に手當する事が出来なかつたが、昨年の春頃から充分以上に買付けた。此の部門も亦註文の減少に苦しみ、其の爲に材料及び成品は凡ゆる地方に亘て過剰に陥た。

造船業も著しく不振に陥た。クライドやマージ等のやうな造船業の中心地に於ても多數の船渠は空になつた。新規の建造は延期された。これは「ロイド船舶名簿」の報告に基づくもので、主として造船原價の昂騰の爲である。此の造船原價の昂騰は、主として勞賃と原料費の騰貴によるものである。此の原價の昂騰は造船業者に多大の不安を惹起してゐる。といふのは、現在の状態では、目下進行中の建造豫定完成後に新規の註文が得られる見込はないからである。

最後に軍需工業であるが、政府が軍備の擴張に専念してゐるので此の方面からの鐵鋼需要が増加する事は確かである。然しながら此のやうな刺戟は、結局は人爲的なものであつて、何時までも鐵鋼業の助けとはならないだらうと考へられてゐる。のみならず、軍備の爲の消費の激増は、他の産業を壓迫する傾向があるといふ事も考へられなくもない。

輸出に就いては、統計の示す處では餘り好ましい状態ではないが事實は可成り囑望す可きものがある。9月中に於けるテイーズ河の諸港からの積出數量は、それ以前の數ヶ月に較べて、著しい増加を示してゐる。勿論10ヶ月間の全國の輸出高總計に於て、前年の同期間に比して600,000tの激減を示してはゐるが、然し之を36年の數字と較べれば、さほど甚だしい不成績とも云へない。とにかく輸出取引の恢復に期待を抱き得るといふ事は、輸出に依存する處の大きいイギリス鐵鋼業にとつて、大いに喜ぶ可き事であらう。

價格 需給の状態は上に述べた通りであつたが、價格に關しては、昨年は變化のない年であつた。あらゆる方面に於ける需要の減退と生産過剰にも拘らず、國內價格は1937年に決定された基礎から變動しなかつた。英國鐵鋼聯盟が1937年11月に基本的な品種に就いて價格を決定した際に、此の基本價格は1938年末まで變へないことを約束した。此の當時は好況は1938年中は先づ續くだらうと一般に豫想されてゐたのである。然るに其の後事情が著しく變化した爲に、消費者側は此の價格は他との均衡上高すぎると云て、此の鐵鋼聯盟の價格据置を非難し始めた。

これに對してメーカー側の言ひ分は、此の價格は生産原價と均衡のとれたものであつて、これ以上の引下げは、メーカーの損失に於て消費者が利するものである、と云ふにあつた。それはとにかくとして、鋼材と並んで、鑄物用銑、半成品、鍊鐵、屑鋼等についても

其の價格は年末まで据置かれることとなり、消費者に少からぬ不満を懷かせた。

要約すれば、昨年中のイギリス鐵鋼業の不振は、國際政局の不安が經濟取引を阻礙した事を、その主な原因の一つとしてゐる。此の國際政局の不安は昨年秋の危機を頂點として、其の後可成りの好

轉を示した。もし此傾向が續けばイギリス鐵鋼業も將來に對して希望を抱く事が出來よう。政局が安定し、鞏固な基礎の上に平和が築かれるといふ見込が立て、將來に對する信頼が大きくなつて來れば、イギリスばかりでなく、全歐洲に亘て取引が復活するであらう國際政局の動きが將來の情勢を決定する鍵であらうと考へられる。

1938年イギリス鐵鋼生産及び輸出入表 (單位 1,000t)

	生 産				輸 入			輸 出		
	石 炭	銑鐵及 合金鐵	稼働熔 鑪數*	鋼塊及 鑄 鋼	鑛 石	銑鐵及 合金鐵	鋼**	熔鑪爐用 コークス	銑鐵及 合金鐵	鋼**
1913 (月平均)	29,951	855	338	639	603	18'0	168	—	93'7	320
1935 "	18,519	535	102	822	379	10'7	85	132	13'2	180
1936 "	19,044	643	110	982	496	25'9	98	120	9'3	174
1937 "	20,099	708	133	1,082	590	60'2	110	138	13'9	201
1938 1 月	20,832	761	130	1,081	618	90'4	218	131	13'0	178
2 月	20,099	693	124	1,058	623	81'6	149	121	7'9	149
3 月	22,006	715	118	1,116	622	95'9	181	90	5'0	171
4 月	17,826	661	111	939	591	38'4	23	51	5'7	163
5 月	19,122	634	105	957	561	24'7	31	63	5'6	162
6 月	17,118	542	97	776	405	29'2	32	49	3'1	148
7 月	16,826	508	90	683	330	19'6	45	144	3'5	132
8 月	17,049	443	81	659	344	11'7	39	136	4'2	131
9 月	18,517	430	77	755	271	18'0	44	144	9'8	128
10 月	19,500	469	76	855	299	11'0	41	144	13'1	146
月 平 均	18,890	586	—	888	466	42'0	80	107	7'1	151

* 1913年の數字は平均、それ以後のものは年末或ひは月末の數。

** 銑鐵鑄物を含む、スクラップは含まず。

1938年イギリス鐵鋼國內價格表 (磅—1t當り)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d
鑄物用銑 (Si250-300)*	5- 9-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
鹽 基 性 爐 銑*	5- 0-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
熔鑪爐用コークス	1-16-3	1-13-9	1-12-6	1-12-5	1-12-6	1-10-0	"	1-7-6	"	"	"	"
ビ レ ッ ト	7-17-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
軌 條	10- 2-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
マーチャントバー**	11- 9-0	"	"	11-16-6	12-4-0	"	"	"	"	"	"	"
形 鋼**	11- 0-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
厚 板 (造船、橋梁、 及タンク用)**	11-14-3	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
薄 板 (#24)	15-15-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
亜鉛鍍板(#24、波板)	13-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
鐵 線	19-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
フープ及バンド**	12- 4-0	"	"	12-7-9	12-19-0	"	"	"	"	"	"	"

* ミドルズブラ渡し。1937年11月以後は、外國品を買はない消費者には、t當り 5s の割引が行はれた。

** 形鋼及び厚板に就いては、公認された場合以外は外國品を買はない消費者に對しては、t當り 15s の割引が行はれた。4月末以後此の割引は、マーチャントバー及フープに對しても行はれる事となつた。

1938年イギリス鐵鋼輸出價格表 (磅—1t當り) (積出港本船積込渡し)

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d
鑄物用銑3號(ミドルズブラ)	6- 0-0	"	5-12-6	5-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"
ヘマタイト銑(東海岸)	7- 5-0	7-0-0	6-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"
ビ レ ッ ト	7-17-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
線 材	11- 5-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
軌 條	10- 2-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
マーチャントバー	12- 0-0	11-15-0	"	"	11-0-0	"	"	"	"	"	"	"
構 造 用 形 鋼	10-12-6	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
厚板(造船、橋梁、タンク)	11-11-3	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
薄 板 (#24)	14-15-0	14-0-0	"	"	"	13-0-0	"	"	"	"	"	"
亜鉛鍍板(#24、波板)	17-10-0	16-15-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
フープ及バンド	13-10-0	13-5-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
鐵 線、ベース	19-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
亜鉛引鐵線、ベース	23- 5-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
ワイヤーネール、ベース	18-10-0	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"	"
ブリキ (108lbs)	1- 2-6	"	"	"	1-0-3	"	"	"	"	"	"	"
マンガ(大西洋岸渡し) ン鐵(關稅込み)	\$ 102'50	"	"	"	"	"	"	\$ 92'50	"	"	"	"

1938年大陸鐵鋼輸出價格表 (金磅 1t 當)

(英國海峽及び北海諸港本船積込渡)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d	£ s d
鑄物用鈍(Si250-3'00)	2-9-0	2-6-9	2-5-0	2-6-0	2-1-9	1-18-0	〃	1-17-0	1-17-6	2-0-0	2-2-0	2-1-0
鹽基性轉爐銑	2-9-9	2-6-0	2-4-6	〃	〃	1-17-6	1-16-0	1-14-0	1-15-0	1-17-6	1-18-6	〃
ピレット	5-7-6	5-5-0	〃	4-17-6	4-15-0	4-5-0	〃	4-10-0	4-17-6	5-0-0	〃	〃
線材	5-17-6	5-7-6	5-2-6	5-0-0	5-2-6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
軌條	5-15-0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
マーチャントバー	5-5-0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	5-3-9	〃	〃	〃	〃
構造用形鋼	5-2-6	4-17-6	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
厚板(5mm)	6-12-6	6-2-6	〃	〃	〃	〃	〃	5-17-6	〃	〃	〃	〃
薄板(#24)	7-0-0	6-17-6	7-5-0	7-10-0	7-15-0	7-5-0	〃	7-7-6	7-5-0	7-10-0	7-15-0	7-10-0
亜鉛鍍板(#24,波板)	10-0-0	9-5-0	8-17-6	9-0-0	〃	8-17-6	8-15-0	8-12-6	8-15-0	8-17-6	9-0-0	8-15-0
フープ及バンド	5-17-6	5-7-6	5-3-0	4-17-6	5-10-0	〃	〃	5-15-0	〃	5-11-0	5-10-0	〃
鐵線(ベース)	6-15-0	6-13-9	〃	〃	〃	〃	〃	6-17-6	〃	〃	〃	〃
亜鉛引鐵線(ベース)	8-10-0	8-0-0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
ワイヤーネール(ベース)	7-17-6	7-5-0	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃

海外鐵鋼情報

經育通信

本年11月中の米國鐵鋼界 本年11月中の米國製鋼作業率は總平均に於て62.05%を示し前月の平均作業率52.45%に比し約10ポイントの上昇であると共に今年中の最高率である、即ち11月の作業率は昨1937年9月以來のものであつて、當時の平均作業率66.30%に比し稍々低率を示して居るにすぎない。之を數字的に見ると11月中の鋼塊生産高3,572,220t、其前月に比し454,286tの増加を示して居る。更に之を昨年11月の總も數2,154,365tに比すれば、1,417,855tの激増である。而も諸種の情報を綜合、觀察するに12月中の作業率は大體に於て上昇の氣配なく寧ろ幾分低下を示すべく見られ居るを以て自然11月中の作業率が今年中のトップと見て差支へあるまい。

一方銑鐵の生産に於ても11月は前月に比し10%の増率である。一般の觀測に依ると、屑鐵價格が上昇する時は、大體に於て一般鐵鋼作業率もよい時であると見られて居る。即ち屑鐵價格は鐵工業のバロメーターであると言ふ事が出来る。

12月の銑鐵生産高は未だ判明しないが11月に比して稍々減少せるものと見ざるべからず假に大約3,250,000tとすれば本年の銑鐵總生産高は大體27,946,000tとなり、先年の生産高49,502,907tに比し本年度の生産總高は1937年度の半期分より稍々多い程度である。

尙12月10日發表せられたる處に依ればU.S.社の11月中に於ける製品の積出量は10月中の總量63,287tに對して大約50,000tの増加を示して居るが11月の積出量は無論本年中の最大量であるから大體に於て本年は此邊が峠であつたと見做し得る譯である。

12月19日發信 11月16日通信以後に於ける米國製鋼作業率次の通り。

11月21日建	61.9%	(昨年全週 31.0%)
11月28日建	60.7%	(同 29.6%)
12月5日建	59.9%	(同 27.5%)
12月12日建	57.7%	(同 27.4%)

即ち季節的の變動もありて漸減の傾向にはあるが昨年のに比する時は約倍の作業率を示して居る。その原因とも見らるべき點は種々あるが最大なるものは矢張自動車工業の賑盛なる事であつて、現にデトロイト地方に於ては、最近のアメリカ鐵鋼界全般が作業率漸減の傾向にあるに不拘逆に先週反て上昇を示し、同地方平均製鋼作業率は83%に達して居る。而してフォード自動車工場は休業中

の平爐1基を吹入れし結局同工場に於て作業中の平爐は總計7基であるが最近の需要増加に鑑み更に1基を吹入れ、本週中には計8基の平爐を働かしむるに至るべしと觀測せられて居る。即ち之を數量的に見るときは1日の出鋼量平均1,700tにして而も自家消費より見れば毎日2,000t位不足を來してゐるとの事である。

更にgreat Lakes Steel.に於ては總計16基の平爐中15基迄作業せしめて居るが而も茲數週間は依然としてこの作業率を保持するであらうと豫測されて居る。

斯くの如くフォードgreat Lakes Steel 兩社共活潑なる作業を續けて居るためにデトロイト地方の製鋼作業率は今週88%を示し米國內各地の製鋼業率中斷然頭角を表はして居るのみならず、前週の作業率84%に比し4%の上昇振である。

之れを要するに製鋼作業は自動車工業の好況の續く限り、この状態を維持し自然今後も高率を支へるものと觀測されて居るが一旦自動車工業不振となれば、今地方の製鋼作業は之に追従して低下せざるを得ない立場にある。即ち先週ピュック自動車會社の工場が労働爭議のため1日工場を閉鎖した爲、過去16ヶ月以來始めて自動車生産高100,000臺を割るの低下振をせるが、フォードのみは前週に比し3,200臺を増加せしめて居る。而して一般の觀測では今週は更に100,000臺を超過し1938年度の最高率に上るものと言はれて居る。

東京大阪鐵鋼市場概況

【1月中旬】 聖戰第3年を迎へ、世は擧げて長期建設の段階に突入する。

鐵鋼界は益々統制策を體し、生産、配給の陣容を強化整備して率先事態に對處せねばならない。

業界の諸統制策も、いつまでも試験でもなく、試験期は過ぎて、内容の強化、整備に努めねばならぬ時となつたのである。

尤も、決して組織が完成したのではなく、統制に遺憾が無いと云ふのではないから、或る方面に於ては相當強度の變革が並行的に出現する事も亦充分覺悟せねばならない。

例へば、共販會社が設立され、指定商が消える。然らば連れて共販會社は如何なる筋と直接契約するかと云ふ問題が起る。指定商の廢止が却て指定商類似級の増加となり、弱小級の淘汰となる場合も生じ得る。即ち、全配給層の變貌と云ふ事も起る可能性が有る。

然し、一方に於ては、假令對抗的、政策的手段であつても、配給業生來の特色を滅失し、多分に特異的である時期に處するに抜き差しならぬ變態を以て臨み、而も試験期から再出發するが如き配給會

社案を採る前に、先づ現存の全鋼商組の内部に於て、大乘的に完全なる店別、品種別、寸法別のストックリストを作成し、而して横の取引禁止に抵觸せざるやう且つは復圓滑にして全親和的に有無相通ぜしむる等整備の法を採り度しと言ひ、或は又共販會社は共販組合の強化に止め、全面的直賣の如き手段に出でざるを良しと爲し、若しくは需要を先物の受註に聽く事は眞面目に考慮せらるべきである等々改過遷善に重點を置く議論の多いのに鑑みるも、今年は概して拙速に據る増築を主眼とせず、内容の整備、強化に力を致し、以て成果を挙げねばならぬ時であるやうに思はれる。

處で、覇業は成るが、覇權を持続する事の至難であるが如く、建設途上に於ては萬難を排し、我執を離れて目的達成に突進するが、一度達すれば、無理が見え、怨を生じ、身を可愛がつて他を責める結局、遂ひには内訌となり破綻を招くものである。

されば本年は正に整備、強化の時期であるが、整備強化は決して根本的變革より遙に容易に受入れられるものではない。

況して本年は物資不足が切實に痛感され、其の影響が改めて深刻味を帯びて來る。此時に當ての整備、強化であるからには峠の向ふに更に峠が連てゐるに相違無く、従て一峯を征して得てして緩み度がる人間の情なきには、大過無く此期に處するのは容易の事ではない。

幸にして今後の整備強化が、配給層に深刻なる社會的波紋を投ぜねばよいが、其の事あるを必要以上に覺悟して臨み而して其の事が無ければ、幸であると言ふ態度を採り度い。

市況は、季節的に商賣に氣乗りせぬ時であり、休日が多くて工場等の消化力も鈍く旁々先に値下げが控へてゐるので、必要以上に買ひ焦らず、連れて幾分閑散と云へは閑散であり、尙ほメーカーよりの積出しが多少急がれる傾向もほの見えて、舊切符の整理が稍々抄取る等其處に僅ながら一時的の差違が無くはないが、大勢は前年末と殆ど變らずに推移してゐて、所謂市況は平穩無事である。今後其根本的に變調を來すが如き事は無く、前年來の統制方針に従て大同小異に進むであらうが、配給層の立場其のものはそう簡單には運ばぬのではあるまいか。

市況は或る程度固定するが、市場關係の諸事情は相當波瀾を畫きつゝ進むのが目下豫見される本年の形相である。

【1月下旬】 日本鐵鋼販賣株式會社設立計畫は着々整備され、近く運営を見るのは既定の事實であるが、其の業務の範圍と實際的内容或は其の後に來るであらう革新配給方法市場として殊に重大なる關心を寄せてゐるものは、未だ窺知するを許されない。

昨今市場の關心は其の點に懸り、其の成行が注目され、連れて必然的に稍々焦燥憂慮の氣配が窺はれる。

一方季節的に入用が旺盛ならざる時とて買氣に多少の衰勢が見え旁々先行に値下げが控へてゐるので、昔の如く露骨にして全般なる買控へに非ずとも、自然と吞まれるので、明朗ならざる氣分と相俟て、謂はゞ比較的には沈滞、小甘いと云へる情勢を見せてゐる。

即ち棒鋼、鋼板等は決して安く賣るのではないが、全般を通じて一頃よりは頭重く、中には口錢、チャージに於てサービスされる物も有るので、昨今の状態には稍々過去に於て謂ふ處の底調が窺はれる。

【2月上旬】 物資の不足はデリデリと潜行してゐる。

今年が名實共に臥薪嘗膽の時であると聞かすが、これは決して消極觀に過ぎるとして看過すべきではない。現實の問題として、既に或る種類の物は嘗膽の餘儀なきに至てゐるやうである。全般的に

も、十二分に其の間の事情を洞察して、十二分に覺悟されねばならない。

物價は何時とはなしに其の居處を引上げて、全面的なる物價高を來してゐる。

需給の因果關係からして、或る程度の物價高は已むを得ずとするも、興亞新秩序建設と云ふ大目的達成の爲めには、適當に物價は抑制される。

物資が不足の峠を彷徨してゐる際、物價高が抑制されるのであるから、必然的に各般に互て、國家に依る善處の手が伸び、強力に依る統制策が施されるが、其の對策にして、所謂商賣に直裁簡明に響いて來るものは消費節約である。

生産力の速急なる増大が望まれず、而して物價高を抑制し、長期建設に對應せんとするからには、民需の更に高度の消費節約は不可避である。されば、所謂商賣がそれに依て直ちに大なり小なり影響されざるを得ない。

鐵鋼の相場は夙に、自治的に統制され、切符と暴利取締令に依て牽制されて、久しく釘づけを續けてゐるのみならず、自ら進んで値下げを決定してゐるので、物價高抑制に依り消費節約を來すと云ふのは聊か適切でないが、それにしても消費節約に依る物價抑制の埒外に放置さるべきではない。況して「不足」の尤なるものであり國家に於て最も緊要とする物なので、價格騰貴の抑制を第二として消費節約それ自體が痛切に要求される。

即ち、民需の抑制は更に進行されるとも決して緩められないのが運命で、従て市場に向けられる數量は一段と壓迫を感じ、統制され、不急用は益々入手難とならざるを得ない。

鐵鋼市場の關心は昨今も引續き日本鋼材販賣株式會社を繞る諸情勢に集注され、就中、端的に云へば將來の地歩確立に重點が置かれてゐるやうに窺はれる。

之れは眞に尤もな事であつて、生活權、事變目的達成等々の方面から眞摯、遠大に考へられ、決して利益獲得に躍起となつて望まれるのでない事は充分理解される。従て將來の「利益確保」を悲觀的に見て成す言は、其の價値が甚だ低いが、然し、本年は如何なる機構の下に於ても、亦如何なる立場に置かれても、利己的に有利なる結果を希て臨む事は、失望を伴ふ以外の何物をも齎らさないのであるから、其の點に於て、此際新機構に對する態度と觀念とを、謂ふ處の悲觀的角度から眺めて、之を確立するのは強ち無駄では無いと考へる。

火車泥は此際誰も考へてをらぬが、主張、要求の貫徹を願ふ裏側には慾望と期待がへばり着いてゐて、得てして利己的に墮し度がるものである。由て近き將來配給機構が何の様にならうとも、不自由、窮屈は進むとも緩和されずと知て、大乘的に對處するにあらざれば所詮は妄執の虜となつて奉公の實に擧げ難いのではあるまいか。

何の程度に窮屈が進行するかであつて、當分は樂觀すべきでない時に臨んでゐるやうである。

昨今は不需求期になると、値下げ期を目前に控へてゐるので、需給に稍々小康を得たる觀有るが、之も結局一時的の現象で、前途には、市場に取ては更に難關が横はつてゐるやうに思はれる。

市況は嵐の前の静けさに非ずとも、木枯を忘れた小春日和の觀である。或は鹿を追うて暫し山を見ずとなすべきか、又は形勢觀傍となすべきか、兎に角此處暫くは概して凡調に推移してゐる。

東京大阪市中鐵鋼相場表

		1月18日	1月18日	1月28日	1月28日	2月8日	2月8日
		東京	大阪	東京	大阪	東京	大阪
丸鋼	6mm	29:00 伸	27:80	29:00 伸	27:80	29:00 伸	27:90
	9	23:10~23:60 "	25:70	23:10~23:60 "	23:10	22:10~23:60 "	23:70
	12	21:00~24:10 "	"	21:00~24:10 "	23:60	21:00~24:10 "	"
	19	19:90	19:90	19:90	19:90	19:90~24:70	20:00
	25	"	"	"	"	"	"
	50	22:60	22:50	22:60	27:30	22:60	22:60
	65	"	"	"	"	"	"
	130	25:70~30:00以上	—	25:70~30:00以上	—	25:70~30:00以上	—
角鋼	9mm	26:20 伸	26:20	26:20 伸	26:20	26:20 伸	26:30
	12	26:80 "	26:70	21:50~28:00 "	26:80	21:50~28:00 "	26:80
	16	25:70	21:50	21:50~27:00	21:50	21:50~27:00	21:60
	19	"	"	"	"	"	"
	38	26:80 伸	25:70	21:50~28:00 伸	26:80	21:50~28:00	"
	50	22:60~29:00 "	26:70	22:60~29:00 "	"	22:60~29:00	22:60
	65	"	—	"	26:70	"	"
	100	"	—	"	—	"	"
平鋼	3×25mm	26:20 伸	27:20	26:20 伸	26:20	26:20 伸	26:30
	9×19	21:50 "	"	21:50 "	21:50	21:50 "	26:60
	6×25	" "	"	" "	26:20	" "	26:30
	6×38	" "	24:90	" "	25:00	" "	25:00
	6×50	" "	"	" "	21:50	" "	25:60
	6×75	27:60	25:50	27:60	25:50	27:60	"
	9×100	"	"	"	"	"	"
	12×100	"	"	"	"	"	"
等邊山形鋼	3×20×20mm	31:50 伸	30:40	31:50 伸	30:50	31:50 伸	30:50
	3×25×25	22:00~30:00 "	28:30	22:00~30:00 "	28:40	22:00~30:00 "	28:35
	5×40×40	21:00	20:90	20:50	21:00	20:50	20:95
	6×45×45	"	"	"	"	"	"
	6×50×50	21:50	21:50	21:50	21:50	21:50	21:50
	6×65×65	20:40	20:40	20:40	20:40	20:40	20:45
	9×75×75	"	"	"	"	"	"
	9×130×130	21:50	21:50	21:00	21:50	21:00	21:50
不等邊山形鋼	12×130×130	"	"	"	"	"	"
	15×150×150	"	"	"	21:80	"	"
	9×50×75mm	21:50	21:50	21:50	21:50	21:50	21:50
	10×75×100	"	"	21:20	"	21:20	"
溝形鋼	10×90×125	"	"	"	"	"	"
	9×100×150	22:00	22:20	21:50	22:20	21:50	22:00
	12×100×150	"	"	"	"	"	"
	5×50×100mm	23:10	23:00	23:10	23:10	23:10	23:10
工形鋼	6×65×125	22:60	22:50	22:60	22:60	22:60	22:55
	6.5×75×150	"	"	"	"	"	"
	7.5×80×200	"	"	"	"	"	"
	9×90×250	"	"	"	"	"	"
鋼板	10×90×300	"	"	"	"	"	"
	5.5×75×150mm	22:60	22:50	22:60	22:60	22:60	22:55
	7×100×200	"	"	"	"	"	"
	10×125×250	"	"	"	"	"	"
薄鋼板 (13枚)	8×150×300	"	"	"	"	"	"
	12×150×350	"	"	"	"	"	"
	1.6×3'×6'	26:40	26:20	26:00	26:20	26:00	26:60
	1.6×4×8	27:30	27:30	27:30	27:30	27:30	27:70
	1.6×5×10	28:40	28:30	28:40	28:40	28:40	28:70
	2.3×3×6	25:70	25:70	25:30	25:70	25:30	26:10
	2.3×4×8	26:80	26:70	26:80	26:80	26:80	27:10
	2.3×5×10	27:80	27:80	27:80	27:80	27:80	28:20
	3.2×3×6	24:10	24:10	24:10	"	24:10	25:50
	3.2×4×8	"	"	"	"	"	26:60
	3.2×5×10	"	"	"	"	"	27:70
	4.5×3×6	23:60	23:60	23:60	"	23:60	24:50
4.5×4×8	"	"	"	"	"	25:50	
4.5×5×10	"	"	"	"	"	26:60	
6.0×4×8	"	"	"	23:60	"	24:00	
6.0×5×10	"	"	"	"	"	"	
9.0×4×8	23:10	23:00	23:10	23:10	23:10	23:40	
9.0×5×10	"	"	"	"	"	"	
12×4×8	"	"	"	"	"	"	
ブリキ	米 (170lbs)	—	—	—	—	—	—
	200	—	—	—	—	—	—
	英 (170)	—	—	—	—	—	—
	200	—	—	—	—	—	—
線材	八幡	38:00	37:00	38:00	37:80	38:00	38:00
	200	39:50	38:00	39:50	38:80	39:50	39:00
線材	W. W 200	40:00	38:50	40:00	37:50	40:00	37:50
	B. W. G. # 5	196:00	197:00	196:00	196:00	196:00	196:00

備考 100%につつき(置場値段)東京は諸掛含まざる標準裸値段)但し薄板は一枚當り、線材はt當り、ブリキは1函當り。

昭和13年12月中發表各種鋼材建値表

(其の1)

所屬別	品 種 別	建 値 日	建 値 (t 當圓)	定 尺 (呎)	エキストラ (圓)	備 考
棒 鋼 共 販	ベース(19mm~32mm)	12-8	175	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	ベース	2, 3月積 長さのエキストラ 34呎迄の不定尺 5圓増 34呎超 45呎迄 6圓増 45呎超 50呎迄 8圓増 50呎超 別途協議の事 2級品の格差 小形丸鋼 3圓落以内 中形丸鋼 10圓落以内 小形角鋼 3圓落以内 中形角鋼 10圓落以内 小形平鋼 10圓落以内 中形平鋼 10圓落以内 中間サイズは別途協議の事 規 格 料 (日本標準規格に據る) 種 別 規格料 鐵道車輛用 {S.R. 34 50 S.R. 39 20 壓延鋼材 {S.R. 44 60 S.R. 50 80 構 造 用 {S.S.R. 34 50 S.S. 39 20 壓延鋼材 {S.S.C. 39 20 造 船 用 {S.M.R. 39 20 壓延鋼材 {S.M.R. 41 50 (S.B.R. 34 90 罐 用 {S.B.R. 41 60 壓延鋼材 {S.B. 49 40 (S.B. 44 100
	5.5mm, 6, 8, 9	"	205	12	+30	
	小形 12(總數量の25%以内)	"	195	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	+20	
	16	"	180	"	+5	
	36~48	"	185	"	+10	
	丸鋼 50~85	"	200	12, 15, 18	+25	
	中形 90, 95	"	210	"	+35	
	100	"	230	"	+55	
	大形 100超~150	"	245	"	+70	
	150超~200	"	265	"	+90	
	共 16mm~32mm	"	190	"	+15	
	角鋼 小形 36~48	"	200	"	+25	
	中形 50~80	"	210	"	+35	
	大形 90~100	"	230	"	+55	
	100超~150	"	245	"	+70	
平鋼 中形 65mm以下	"	190	"	+15		
小形 C5超~130	"	200	"	+25		
形 鋼 共 販	小形等邊山形鋼 A 3mm×20mm×20mm	12-8	210	12, 15, 18, 20	+25	2, 3月積 長さ又は切揃のエキストラ 25呎超 40呎未滿 {大形 10圓 中形 5圓 40呎超 60呎以下 {大形 15圓 中形 10圓 50 呎 超 {大形 20圓 中形 15圓 25 呎 未 滿 {大形 15圓 中形 10圓 2級品の格差 小中大形形 3圓落 規 格 料 (日本標準規格に據る) 構造規格 S.S. 39 20圓 造船規格 {S.M. 41 50 S.M. 44 60 罐用規格 S.B. 44 100 車輛規格 {S.R. 34 50 S.R. 39 20 (S.R. 44 60
	B 3×25×25	"	200			
	3×30×30	"	200			
	3×40×40	"	200			
	C 5×30×30	"	185			
	5×40×40	"	185			
	4×45×45	"	185			
	6×40×40	"	185			
	6×45×45	"	185			
	小形不等邊山形鋼 A 3×40×20	"	210			
	5×40×20	"	210			
	B 4×50×35	"	195			
	6×50×35	"	195			
	等邊(50mm以上 100mm以下)	"	180			
	4×50×50	"	195			
中形山形鋼 6×50×50	"	190				
8×50×50	"	190				
不等邊(邊の和100mm以上 200mm以下但し 125×90を含む)	"	190				
大形山形鋼 (等邊(邊 100超) 200×200)	"	190				
193	"	193				
(不等邊(邊の和 200mm超但し 125×90)を除く)	"	195				
大形形鋼 100mm×75mm以上	"	200				
400×150	"	202				
大工形鋼 450×175	"	203				
20'×7½'	"	203				
24×7½	"	206				
大形溝形鋼 {125mm×65mm以上 (高100mm超)	"	200				
中形溝形鋼 {75mm×40mm (50mm以上100mm以下) {100×50	"	210				
	"	210				

昭和13年12月中發表各種鋼材建値表

(其の2)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 月 日	建 値		エキス ト ラ	備 考		
				シーヤ及 間屋向	實需向				
鋼 板 共 販	耳	小形 (12mm×5' ×20'以下)	6mm超 12mm以下	12-9	175		ベース	其の他のエキストラ 6mm厚のものに付幅5呎超 20圓 7呎~7呎6吋迄 15 7呎6吋超~8呎迄 20 8呎超~9呎迄 25 9呎超~10呎迄 30 10呎超 40 25mm~35mm迄 10圓 35超~40 迄 20 40超~45 迄 30 45超~50 迄 40 長さ 30呎超 10圓 規 格 料 (日本標準規格に據る) S. S. 39 20圓 S. R. 34 80 B. R. 39 20 S. R. 44 30 S. M. 41 30 S. M. 44 30 S. B. 34 90 S. B. 39 80 S. B. 41 80 S. B. 44 80	
			6mm	"	180		+5		
	付	大形 (12mm×5' ×20'超)	12mm超 25mm未滿	"	185		+10		
			6mm超 12mm以下	"	185		+10		
	板	定 尺 (3呎×6呎、 4×8、5×10)	6mm	6mm超 12mm以下	"	205	215		ベース
				12mm超 25mm未滿	"	210	220		+5
			45mm	6mm	"	210	220		+5
				3×6	"	225	235		+20
				4×8	"	235	245		+30
			32mm	5×10	"	245	255		+40
				3×6	"	235	245		+30
				4×8	"	245	255		+40
			5×10	4×8	"	255	265		+50
				5×10	"	255	265		+50
	販	切 小形	厚板 ベース	"		220	ベース		
			6mm	"		225	+5		
		大形	厚板 ベース	"		230	+10		
			6mm	"		235	+15		
	薄 板 共 販	31番	3呎×6呎 (13枚入)	12-12		260			1月積据置
				"		260			其の他のエキストラ
"					258		(1) 30吋×5呎 3圓		
"					258		30×7 7		
"					256		30×8 8		
"					254		30×9 18		
"					254		3呎×7呎 5		
"					252		3×8 10		
"					252		(2) 其の他の特殊寸法はエキストラ		
"					250		20圓以内とし其の都度協		
"					245		定の事		
"					255		(3) 規定外寸法は近似寸法の高き		
"					265		方の値段による事		
"					240				
"		250							
"		260							
鉄 力 板 共 板	170lb (20吋×28吋×112枚入1函)	12-13			36'00		1月積据置		
			"			37'50	定期實需家向はオイルサイズ胴板 1		
			"			21'50	函に付 43 錢 天地板 1 函に付 60 錢、其の他の		
			"			30'00	サイズ 1 函に付 75 錢増 發出品小板 (14'×20') は各サイズ 各級値段に對し 30 錢引。		

昭和13年12月中發表各種鋼材建値表

(其の3)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 日	建 値	備 考	
半 製 品、 棒 鋼 共 販 第 二 部	半製品	鋼塊	軟鋼	12-9	195	2月積 1. 鋼塊 單重 500kg 以上, 2,000kg 未滿 最高20圓 2,000kg 以上, 3,000kg 迄 " 35 3,000kg を超ゆるものは別途協議の事 チップング費用は別途申受けの事 2. 鋼片 邊又は徑 75mm 未滿のもの及 180mm を超ゆるものに付ては別途協議の事
			硬鋼	"	195	
			硬鋼	"	205	
			最硬鋼	"	215	
		鋼片	軟鋼	"	210	
			硬鋼	"	210	
			硬鋼	"	220	
			最硬鋼	"	230	
	棒鋼	半硬鋼	鋼	12-9	245	徑のエキストラ 丸鋼及角鋼 5.5mm~6mm 50圓 8, 9 40 11~13, 50 以上 100 迄 25 100 超 150 迄 70 150 超 200 迄 90 六角鋼のエキストラ 12mm~26mm 80圓 29~58 50 楕圓鋼のエキストラ 30圓 平鋼のエキストラ 厚 幅 1/8" × 3/8 又は 1/2" 150圓 1/8" × 3/8 又は 3/4 又は 1 140 1/8" × 1 1/4 -6 130 3/16 × 1 1/4 -6 70 1/4 × 3/4 -4 30 1/4 × 4 1/2 -6 50 5/16 -1 1/4 × 3/8 -4 30 5/16 -1 1/4 × 4 1/2 以上 50 1 1/2 × 2 -4 30 1 1/2 × 4 1/2 以上 50 1 1/2 超 × 3 以上 30
			鋼	"	245	
			鋼	"	254	
		最硬鋼	鋼	"	263	
			鋼	"		
			鋼	"		
線 材 共 販	普通線材	5.5mm	12-10	185		
		太番(7mm~13mm)	"	215		
	熔接炭素鋼	用品	"	245		
		用品	"	230		
		鋼	"	240		
		A	"	260		
		B	"	250		
		線用	"	230		
電線	"	220				
含鐵鋼裝	線用	"	240			

昭和 13 年 12 月中發表各種鋼材建値表

(其の 4)

所屬別	品 種 別	區 分	建 値 日	建 値	備 考	
帶 鋼 共 販	0.9~1mm	19~24mm	12-14	285	但幅 171mm 以上幅 170mm をベースとして 1t に付 15 圓増のこと	
		25~35	"	275		
		36~85	"	260		
		86~105	"	270		
	1.1~1.3mm	19~24	"	280		
		25~35	"	265		
		36~49	"	255		
		50~121	"	250		
		122~150	"	255		
	1.4~2mm	151~160	"	260		
		19~24	"	270		
		25~35	"	255		
		36~49	"	250		
		50~121	"	245		
	2.1~2.5mm	122~150	"	250		
		151~170	"	255		
		25~35	"	255		
		36~49	"	250		
		50~121	"	245		
	2.6~3mm	122~150	"	250		
151~170		"	250			
25~35		"	255			
36~49		"	250			
目 本 製 鐵	美裝鋼板 { 1.6mm } 白鳩印	# 18	12-8	問屋向 263 278	實需向 276 292	1, 2 月積, 据置
	縞鋼板 { 4.5mm } 60			255 (標準 値段)		10 圓上げ 全部實需向なり
	珪素鋼板	B	級	11-2	310	据置 " " "
		C	級	"	340	
		D	級	"	375	
		T	級	"	455	
T	S	級	"	500		
スコップ用鋼板	{ 1.8mm x 3' x 6' } { 1.85 x 3 x 6 }		12-10	問屋向 270	實需向 285	4' x 8' のエキストラは 10 圓
重軌	軌條 (繼目板共)		7-5	210		据置
			9-20	210		"
鋼	矢板		12-5-25	205		指定河岸渡 t 當り値段なり

昭和14年1月中發表各種鋼材建値表

(其の1)

所屬別	品 種 別	建 月 日	建 値 (t當圓)	定 尺 (呎)	エキストラ (圓)	備 考		
棒 鋼 共 販	丸鋼	ベース(19mm~32mm)	1-11	175	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	ベース	3, 4月積, 据置 長さのエキストラ 34呎迄の不定尺 5圓増 34呎超 45呎迄 6圓増 45呎超 50呎迄 8圓増 50呎超 別途協議の事 2級品の格差 小形丸鋼 3圓落以内 中形丸鋼 10圓落以内 小形角鋼 3圓落以内 中形角鋼 10圓落以内 小形平鋼 10圓落以内 中形平鋼 10圓落以内 中間サイズは別途筋議の事 規 格 料 (日本標準規格に據る)	
		55mm, 6, 8, 9	"	205	12	+30		
		12(總數量の25%以内)	"	195	12, 15, 16, 18, 20, 22, 24	+20		
		16	"	180	"	+5		
		36~48	"	185	"	+10		
		50~85	"	200	12, 15, 18	+25		
		90, 95	"	210	"	+35		
		100	"	230	"	+55		
		100超~150	"	245	"	+70		
		150超~200	"	265	"	+90		
	角鋼	小形	"	190	"	+15	種 別 規格料 鐵道車輛用 {S.R. 34 50 S.R. 39 20 壓延鋼材 {S.R. 44 60 S.R. 50 80 構 造 用 {S.S.R. 34 50 S.S. 39 20 壓延鋼材 {S.S.C. 39 20 造 船 用 {S.M.R. 39 20 S.M.R. 41 50 罐 用 {S.B.R. 34 90 S.B.R. 41 60 壓延鋼材 {S.B. 41 90 S.B. 44 100	
		36~48	"	200	"	+25		
		50~80	"	210	"	+35		
		90~100	"	230	"	+55		
		100超~150	"	245	"	+70		
		平鋼	"	190	"	+15		
	小形	65mm以下	"	190	"	+15		
	中形	65超~130	"	200	"	+25		
	形 鋼 共 販	小形等邊山形鋼	A 3mm×20mm×20mm	1-11	210	12, 15, 18, 20	+25	3, 4月積, 据置 長さ又は切揃のエキストラ 25呎超 40呎未滿 {大形 10圓 中形 5圓 40呎超 60呎以下 {大形 15圓 中形 10圓 50 呎 超 {大形 20圓 中形 15圓 20 呎 未 滿 {大形 15圓 中形 20圓 2級品の格差 小中大形 3圓落 規 格 料 (日本標準規格に據る)
			B {3×25×25 3×30×30 3×40×40	"	200	"	+15	
C {5×30×30 5×40×40 4×45×45 6×40×40 6×45×45			"	200 185 185 185 185	"	ベース		
小形不等邊山形鋼			"	210	"	+25		
A {3×40×20 5×40×20			"	210	"	+10		
B {4×50×35 6×50×35			"	195 195	"	+10		
等邊(50mm以上 100mm以下)			"	180	"	ベース		
中形山形鋼			"	195	25, 30, 33, 36, 40	+15		
4×50×50			"	190	"	+10		
8×50×50			"	190	"	+10		
不等邊(邊の和100mm以上 200mm以下但し 125×90を含む)		"	190	"	+10			
大形山形鋼		等邊(邊 100 超)	"	190	"	ベース		
		200×200	"	193	"	+3		
		不等邊(邊の和 200mm 超但し 125×90)を除く	"	195	"	+5		
		大形工形鋼	"	200	"	ベース		
100mm×75mm以上		"	202	"	+2			
400×150		"	203	"	+3			
450×175		"	203	"	+3			
20"×7½"		"	206	"	+6			
24×7½		"	200	"	ベース			
大形溝形鋼	125mm×65mm以上 (高100mm超)	"	200	"	ベース			
	中形溝形鋼 (75mm×40mm)	"	210	"	+10			
	(50mm以上100mm以下)	"	210	"	+10			
	100×50	"	210	"	+10			

昭和14年1月中發表各種鋼材建値表

(其の2)

所屬別	品 種 別	建 値 日	建 値		エキストラ	備 考	
			シヤ及 間屋向	實需向			
鋼 板 共 販	耳付	小形 (12mm×5'×20'以下)	6mm超 12mm 以下	1-12	175	ベース	2, 3 月積, 据置 其の他のエキストラ 6mm厚のものに付幅 5呎超 20圓 幅 { 7呎~7呎6吋迄 15 7呎6吋超~8呎迄 20 8呎超~9呎迄 25 9呎超~10呎迄 30 10呎超 40 厚 { 25mm~35mm 迄 10圓 35超~40迄 20 40超~45迄 30 45超~50迄 40 長さ 30呎超 10圓 規 格 料 (日本標準規格に據る) S.S. 39 20圓 S.R. 34 80 B.R. 39 20 S.R. 44 30 S.M. 41 30 S.M. 44 30 S.B. 34 90 S.B. 39 80 S.B. 41 80 S.B. 44 80
		大形 (12mm×5'×20'超)	6mm	180	+5		
	定尺 (3呎×6呎, 4×8, 5×10)	6mm	12mm超 25mm 未滿	185	+10		
			6mm超 12mm 以下	190	+15		
	3呎×6呎	4.5mm	6mm 超 12mm以下	205	215	ベース	
			12mm超 25mm未滿	210	220	+5	
			3×6	210	220	+5	
			4×8	225	235	+20	
			5×10	235	245	+30	
			3×6	245	255	+40	
	3.2mm	4×8	3×6	235	245	+30	
			4×8	245	255	+40	
			5×10	255	265	+50	
	切板	大形	厚板 ベース		220	ベース	
			6mm		225	+5	
薄 板 共 販	3呎×6呎	31番 (13枚入)	1-12	260		2 月積, 据置 其の他エキストラ (1) 30吋×5呎 3圓 30×7 7 30×8 8 30×9 18 3呎×7呎 5 3×8 10 (2) 其の他の特殊寸法はエキストラ20圓以内とし其の都度協定の事 (3) 規定外寸法は近似寸法の高き方の値段による事	
		30 (12枚入)	260				
		29 (11枚入)	258				
		28 (10枚入)	258				
		27 (9枚入)	256				
		26 (8枚入)	256				
		25 (7枚入)	254				
		24 (6枚入)	254				
		22 (5枚入)	252				
		20 (4枚入)	252				
		18 (3枚入)	250				
		1.6mm	4×8		245		ベース
				5×10	255		+10
				2.3mm	265		+20
		2.3mm	4×8		240		ベース
5×10	250			+10			
		260	+20				
鉄 力 板 共 販	170封度(20吋×28吋×112枚入一函)	1-14	36'00		2 月積, 据置 定期實需家向はオイルサイズ胴板 1函に付 43 錢 天地板 1函に付 60錢, 其の他のサイズ 1函に付 75 錢増 發生品小板 (14'×20') は各サイズ各級値段に對し 30 錢引		
	200封度(20吋×28吋×112枚入一函)	37'50					
	石油罐用 胴板 110 封度(14吋×18 ³ / ₄ ×124 枚入)	21'50					
	石油罐用 天地板 156 封度(10吋×20吋×225 枚入)	30'00					

昭和14年1月中發表各種鋼材建値表

(其の3)

所屬別	區 分 品 種 別	建 値 月 日	建 値	備 考		
半 製 品	鋼塊 半製品 鋼片	半軟鋼	1-12	195	3月積, 据置 1. 鋼塊 單重 500kg以上, 2,000kg未滿 最高20圓 2,000kg以上, 3,000kg迄 " 35 3,000kgを越ゆるものは別途協議の事 チッピング費用は別途申受けの事 2. 鋼片 邊又は徑75mm未滿のもの及180mmを越ゆるもの 付ては別途協議の事	
		半硬鋼	"	195		
		硬鋼	"	205		
		最硬鋼	"	215		
		半軟鋼	"	210		
		半硬鋼	"	210		
		最硬鋼	"	220		
	鋼棒	半硬鋼 最硬鋼	軟鋼	12-9		245
			硬鋼	"		245
			硬鋼	"		254
			最硬鋼	"		263
			徑のエキストラ 丸鋼及角鋼 5.5mm~6mm	50圓		
			8, 9	40		
			11~13, 50以上 100迄	25		
100超150迄	70					
150超200迄	90					
六角鋼のエキストラ						
12mm~26mm	80圓					
29~58	50					
橢圓鋼のエキストラ	30圓					
平鋼のエキストラ						
厚 幅						
1/8" × 3/8"又は1/2"	150圓					
1/8" × 5/8"又は3/4"又は1"	140					
1/8" × 1 1/4"-6	130					
3/16" × 1 1/4"-4	70					
1/4" × 3/4"-4	30					
1/4" × 4 1/2"-6	50					
5/16" - 1 1/4" × 5/8"-4	30					
3/16" - 1 1/4" × 4 1/2"以上	50					
1 1/2" × 2"-4	30					
1 1/2" × 4 1/2"以上	50					
1 1/2"超 × 3以上	30					
線 材 共 販	普通線材	5.5mm	1-13	185	2, 3月積, 据置	
		太番(7mm~13mm)	"	215		
	熔接用		"	245		
	低炭素品		"	230		
	半硬鋼		"	240		
	硬鋼A		"	260		
	硬鋼B		"	250		
	電信線		"	230		
	電含線		"	220		
	鍍銅裝用		"	240		

昭和14年1月中發表各種鋼材建値表

(其の4)

所屬別	區分 品種別	建値 月日	建 値	備 考						
帶 鋼 共 販	厚 0.9mm~1mm	幅 19mm~24mm	1-13	285	2月積, 据置 但幅 171mm 以上幅 170mm をベースとして 1t に付 15 圓増のこと					
			"	275						
			"	260						
			"	270						
			"	280						
			"	265						
	1.1mm~1.3mm	幅	"	255	エキストラ (1) 中間サイズは5圓増のこと (2) 厚さ 3mm 超は5圓増のこと					
			"	250						
			"	255						
			"	260						
			"	270						
			"	255						
	1.4mm~2mm	幅	"	250						
			"	245						
			"	250						
			"	255						
			"	255						
			"	255						
	2.1mm~2.5mm	幅	"	250						
			"	245						
			"	250						
			"	255						
			"	255						
			"	255						
2.6mm~3mm	幅	"	250							
		"	240							
		"	245							
		"	245							
		"	250							
		"	250							
美 裝 鋼 板 {1.6mm} 白 鳩 印	# 18	12-8	問屋向 263	實需向 276	1, 2月積, 据置					
			278	292						
			255(標準 値段)			10 圓上げ 全部實需向なり				
			珪 素 鋼 板 {4.5mm} 6.0	級 級 級 級 級			11-2	310	据 置	
								"		340
								"		375
"	455									
ス コ ッ プ 用 鋼 板 {1.8mm x 3' x 6'}	1.85 x 3 x 6	12-10	問屋向 270	實需向 285	4' x 8' のエキストラは 10 圓					
			210							
			210							
			205							
重 軌 條 (繼目板共)	輕 軌 條	7-5	210		据 置					
		9-20	210		"					
		12-5-25	205		指定河岸渡 t 當り値段なり					